

1	デザインセミナー I LCD-SC-101	必修 1単位 1年前期	
	Introduction to Design Studies I		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
身のまわりの、特に地域に根差したデザインの実例に触れ、その意義を理解する。グループワークを通して、グループの一員として集団に貢献する基礎的な考え方やコミュニケーションスキルを身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少人数のセミナーに分かれ、与えられたテーマに基づき、仙台および周辺エリアのデザインの実例を調査する。調査の結果わかったことを元にディスカッションを行い、考察したことをプレゼンテーションにまとめて発表する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (全体)	予習：デザイン全般について調べる。 復習：配付資料を確認し、スケジュールと授業の目的を理解する。	1
第2回	ツアー準備1：テーマ確認	予習：与えられたテーマについて考える。 復習：調査の目的を明確にする。	1
第3回	ツアー準備2：調査対象の選定	予習：調査対象 (訪問先) の候補を、仙台および周辺エリアから探しておく。 復習：決定した調査対象について概略情報を集める。	1
第4回	ツアー準備3：調査対象の詳細調査	予習：調査対象の情報を広く集める。 復習：絞り込んだ調査対象に関する詳細な情報を、書籍、ウェブ等の文献資料から収集する。	1
第5回	ツアー準備4：タイムテーブル・分担決定	予習：調査実施の際のタイムテーブルを考える。 復習：自分の担当範囲を確認する。	1
第6回	ツアー実施1	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第7回	ツアー実施2	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第8回	ツアー実施3	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第9回	プレゼンテーション準備1：情報整理	予習：調査で得られた情報を整理しておく。 復習：メンバー間で共有した情報を復習する。	1
第10回	プレゼンテーション準備2：調査結果の考察	予習：調査結果に対する各自の考えをまとめておく。 復習：ディスカッションの結論を復習する。	1
第11回	プレゼンテーション準備3：成果のまとめ	予習：各自のまとめの案を考えておく。 復習：考察に基づき、調査の成果、テーマに対するグループとしての結論をまとめる。	1
第12回	プレゼンテーション準備4：発表準備	予習：パワーポイントやレジュメ等のプレゼンテーションツールの使い方を確認する。 復習：発表の手順を確認する。	1
第13回	プレゼンテーション1 (全体)	予習：発表のリハーサルを行う。 復習：講評・他グループの発表の内容について復習する。	1
第14回	プレゼンテーション2 (全体)	予習：発表のリハーサルを行う。 復習：講評・他グループの発表の内容について復習する。	1
第15回	まとめ	予習：準備・実施・発表のプロセスを振り返る。 復習：学びの成果を再確認する。	1
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
グループワークでの貢献の度合い、プレゼンテーションの内容に基づき評価する。			

2	デザイン論 I LCD-TH-101	必修 2単位 1年前期	
	Theory of Design I		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
デザインという概念の大きな全体像を把握し、それぞれの分野と本学科での学びの対応関係を理解する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
第1、2回はデザイン対象の概要と本学科における学修内容の概説を行う。第3回以降は学科の全教員が1～2回の授業を担当し、各自の専門分野を説明する。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	デザインの本質と学びについて	予習：関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	クリエイティブデザイン学科の学習内容の概説	予習：関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	広告表現におけるグラフィックデザイン	予習：広告表現におけるグラフィックデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	イラストレーションとコンピュータグラフィクス	予習：イラストレーションとコンピュータグラフィクスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	平面構成のルールとセオリー	予習：平面構成のルールとセオリーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	携帯情報機器のデザインの歴史	予習：携帯情報機器のデザインの歴史に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	モバイルアプリのユーザーエクスペリエンスデザイン	予習：モバイルアプリのユーザーエクスペリエンスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	デザインの目的・対象の変化とデザインプロセス	予習：デザインの目的・対象の変化とデザインプロセスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	コミュニティ活動の支援と情報・メディアのデザイン	予習：コミュニティ活動の支援と情報・メディアのデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	サウンドデザインの歴史	予習：サウンドデザインの歴史に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	社会におけるサウンドデザインの多様な役割	予習：社会におけるサウンドデザインの多様な役割に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	アイデアの展開	予習：アイデアの展開に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	プロダクトデザインの対象と一般的なプロセス	予習：プロダクトデザインの対象と一般的なプロセスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	デザインマーケティングと産学官連携デザイン	予習：デザインマーケティングと産学官連携デザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	タイプフェイスデザイン	予習：タイプフェイスデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認しておく。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
毎回レポートを課し、その提出状況と内容に表れる授業内容の理解度を基準に評価する。			

3	デザイン史 LCD-TH-102	必修 2単位 1年前期	
	History of Design 1年全組 教授 梅田 弘樹		
授業の達成目標		授業形態	
デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。すなわち、歴史の延長である今現在においてデザインを行う際の指針となるような知識を、各時代のデザイン思想とその成果の中から見出し、学び取る。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
19世紀から現在に至るデザイン史の流れを、人物とムーブメントを軸に、概ね時系列順に紹介する。題材はヨーロッパのプロダクトデザインを中心に、時にアメリカや日本の、また空間デザインやグラフィックデザインまでを含む。各時代のデザインムーブメントを当時の社会背景と対比すること、それぞれの様式が今日のデザインに影響を与えている例を確認することで、現代あるいはこれからの社会に対して行うデザインに活用できる生きた知識としての歴史の習得を目指す。		** ○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は、プロダクトデザイナーとして様々な製品のデザイン業務に従事した実績と経験にもとづき、デザインの意義やその根本思想を考える際に歴史から学ぶことの重要性を説く。		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス：デザイン史を学ぶ意義	予習：身の回りのものとデザインとの関連について考える。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	予備知識：ヨーロッパの地理・歴史・文化の概観	予習：ヨーロッパの地図を見て主要な国の場所を確認しておく。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	アーツ・アンド・クラフツ運動	予習：アーツ・アンド・クラフツ運動に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	アール・ヌーヴォー	予習：アール・ヌーヴォーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	バウハウス	予習：バウハウスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	アール・デコ・ロシア構成主義	予習：アール・デコ、ロシア構成主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	ここまでの復習	予習：第1回から第6回までのキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	モダニズム・合理主義	予習：モダニズム・合理主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	アメリカ：コマーシャルリズムとデザイン	予習：アメリカのデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	日本：工芸と大企業のデザイン	予習：日本の工芸とデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	20世紀後半のデザイン	予習：20世紀後半のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	ポストモダンとそれ以降	予習：ポストモダンに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	北欧のデザイン	予習：北欧のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	現在とこれから	予習：現在のデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	まとめと試験	予習：試験に備え、これまでの授業内容をまとめる。 復習：試験問題でわからなかったところを調べる。	4
教科書・参考書等			
参考書 世界デザイン史カラー版 阿部公正ほか著 美術出版社 デザイン史を学ぶクリティカル・ワーズ橋本優子ほか編 フィルムアート社			
成績評価方法・基準			
毎回の講義後に課されるレポートの内容と、期末試験の点数を総合的に評価する。			

4	アイデア基礎および同演習 I LCD-TC-101		必修 3単位 1年前期
	Ideation and Exercises I		
1年全組 教授 堀江 政広 教授 両角 清隆			
授業の達成目標			授業形態
個人でのアイデア発想法を理解し、実践できるようになること。グループでの発想法を理解し、ブレインストーミングを実践し、グループディスカッションができるようになること。絵によるアイデア発想法ができるようになること。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
個人でのアイデア発想法と、ブレインストーミングの基本、グループでのアイデア発想法について学ぶ。絵でアイデアを伝えるブレインストーミングとアイデア展開の手法を習得する。授業では、幅広い分野でアイデア創出の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンスとマインドマップ、マンダラートの解説と実践	予習：に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第2回	ブレインストーミングとKJ法の解説と実践	予習：ブレインストーミングとKJ法に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第3回	ブレインライティングの解説と実践1(テーマの検討と決定)	予習：ブレインライティングに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第4回	ブレインライティングの実践2(アイデア発想)	予習：ブレインライティング(アイデア発想)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第5回	ブレインライティングの実践3(アイデアの抽出と発表)	予習：ブレインライティング(アイデアの抽出)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第6回	カードブレインストーミングの解説と実践1(アイデア発想)	予習：カードブレインストーミング(アイデア発想)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第7回	カードブレインストーミングの実践2(アイデアの抽出)	予習：カードブレインストーミング(アイデアの抽出)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第8回	カードブレインストーミングの実践3(アイデアの発表)	予習：カードブレインストーミング(アイデアの発表)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第9回	クルクルスケッチの解説と、マンダラートによるキーワードの抽出と掛け合わせ	予習：クルクルスケッチとマンダラートに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第10回	クルクルスケッチの実践1(個人によるアイデアスケッチ)	予習：クルクルスケッチに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第11回	クルクルスケッチの実践2(アイデアと意見の共有)	予習：クルクルスケッチのアイデアに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第12回	クルクルスケッチの実践3(A案に書き足す)	予習：クルクルスケッチの実践に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第13回	クルクルスケッチの実践4(B案に書き足す)	予習：クルクルスケッチの実践に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第14回	クルクルスケッチの実践5(アイデアスケッチの完成と発表)	予習：クルクルスケッチ(アイデアスケッチ)に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第15回	まとめ	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認しておく。	5
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
中間の提出物(40%)と最終発表(60%)。			

5	表現技術および同演習 I LCD-TC-102		必修 3単位 1年前期
	Expression Technique and Exercises I		
1年全組 教授 篠原 良太 准教授 古川 哲哉 助教 阿部 寛史			
授業の達成目標			授業形態
アイデアを実現する上で最低限必要となるコンピュータを用いた表現技術の基礎（考え方・アプリケーションの操作方法等）を習得する。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
各回ごとの演習課題を通してコンピュータを用いた作図表現や文字表現、写真加工の方法を学ぶ。最終的にそれぞれの作品を1枚のパネルにまとめ、ポスターレイアウトの基礎についても習得する。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	オリエンテーション／PCを用いたデザイン基礎・概論	予習：キーワードについて調べておく。復習：配付資料を確認し、課題を完成させる。	5
第2回	<課題1>イラストレーター基礎（アートボード・図形・グラデーション）	予習：イラストレーター（アートボード、図形・グラデーション）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第3回	<課題2>イラストレーター基礎（マスキング・複合パス・レイヤー処理）	予習：イラストレーター（マスキング・複合パス・レイヤー）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第4回	<課題3>イラストレーター基礎（ベジェ曲線・トレース①）	予習：イラストレーター（ベジェ曲線・トレース）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第5回	<課題4>イラストレーター基礎（ベジェ曲線・トレース②）	予習：イラストレーター（ベジェ曲線・トレース）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第6回	<課題5>イラストレーター基礎（テキスト処理・タイポグラフィ①）	予習：イラストレーター（テキスト処理・タイポグラフィ）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第7回	<課題6>イラストレーター基礎（テキスト処理・タイポグラフィ②）	予習：イラストレーター（テキスト処理・タイポグラフィ）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第8回	<課題7>フォトショップ基礎（色修正・レイヤー処理）	予習：フォトショップ（色修正・レイヤー）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第9回	<課題8>フォトショップ基礎（画像合成）	予習：フォトショップ（画像合成）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第10回	<課題9>フォトショップ基礎（レタッチ）	予習：フォトショップ（レタッチ）のキーワードについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第11回	<課題10>課題9までの集合作品を制作する（レイアウト概論）	予習：課題9レイアウトについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第12回	<課題11>課題9までの集合作品を制作する（アイデア展開）	予習：課題9アイデアについて調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第13回	<課題12>課題9までの集合作品を制作する（デザイン制作）	予習：課題9デザイン制作について調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第14回	<課題13>課題9までの集合作品を制作する（パネル制作）	予習：課題9パネル制作について調べる。復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第15回	まとめ／全体講評	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。復習：これまでの配付資料などを確認し、課題を完成させる。	5
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
各課題の提出作品により総合的に評価する。			

6	デザインセミナーⅡ LCD-SC-102	必修 1単位 1年後期	
	Introduction to Design Studies II		
1年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
身のまわりの、特に地域に根差したデザインの実例に触れ、その意義に関する理解をさらに深める。グループワークを通して、グループの一員として集団に貢献する考え方やコミュニケーションスキルをさらに高める。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
少人数のセミナーに分かれ、自ら設定したテーマに基づき、仙台および周辺エリアのデザインの実例を調査する。調査の結果わかったことを元にディスカッションを行い、考察したことをプレゼンテーションにまとめて発表する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (全体)	予習：デザイン全般について調べる。 復習：配付資料を確認し、スケジュールと授業の目的を理解する。	1
第2回	ツアー準備1：テーマ決定	予習：テーマの案を考える。 復習：調査の目的を明確にする。	1
第3回	ツアー準備2：調査対象の選定	予習：調査対象 (訪問先) の候補を、仙台および周辺エリアから探しておく。 復習：決定した調査対象について概略情報を集める。	1
第4回	ツアー準備3：調査対象の詳細調査	予習：調査対象の情報を広く集める。 復習：絞り込んだ調査対象に関する詳細な情報を、書籍、ウェブ等の文献資料から収集する。	1
第5回	ツアー準備4：タイムテーブル・分担決定	予習：調査実施の際のタイムテーブルを考える。 復習：自分の担当範囲を確認する。	1
第6回	ツアー実施1	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第7回	ツアー実施2	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第8回	ツアー実施3	予習：調査のタイムテーブル・経路等を確認する。 復習：記録した調査結果を復習する。	1
第9回	プレゼンテーション準備1：情報整理	予習：調査で得られた情報を整理しておく。 復習：メンバー間で共有した情報を復習する。	1
第10回	プレゼンテーション準備2：調査結果の考察	予習：調査結果に対する各自の考えをまとめておく。 復習：ディスカッションの結論を復習する。	1
第11回	プレゼンテーション準備3：成果のまとめ	予習：各自のまとめの案を考えておく。 復習：考察に基づき、調査の成果、テーマに対するグループとしての結論をまとめる。	1
第12回	プレゼンテーション準備4：発表準備	予習：パワーポイントやレジュメ等のプレゼンテーションツールの使い方を確認する。 復習：発表の手順を確認する。	1
第13回	プレゼンテーション1 (全体)	予習：発表のリハーサルを行う。 復習：講評・他グループの発表の内容について復習する。	1
第14回	プレゼンテーション2 (全体)	予習：発表のリハーサルを行う。 復習：講評・他グループの発表の内容について復習する。	1
第15回	まとめ	予習：準備・実施・発表のプロセスを振り返る。 復習：学びの成果を再確認する。	1
教科書・参考書等			
なし			
成績評価方法・基準			
グループワークでの貢献の度合い、プレゼンテーションの内容に基づき評価する。			

7	デザイン論Ⅱ LCD-TH-103	必修 2単位 1年後期	
	Theory of Design II		
1年全組 教授 篠原 良太 教授 両角 清隆		准教授 古川 哲哉 准教授 長崎 智宏	
		助教 阿部 寛史	
授業の達成目標		授業形態	
デザイン対象の幅広さを学び、現代社会におけるデザインの有効性、意義を理解する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
多様なデザイン対象の中から、イラストレーション、グラフィックデザイン、映像、ウェブデザイン、アプリケーションデザインについて、それぞれがどのような考え方や手法によって実際に行われているか、具体的な事例を織り交ぜながら解説する。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	イラストレーション1：歴史と表現手法	予習：イラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	イラストレーション2+グラフィックデザイン1：ポスターの歴史と表現	予習：グラフィックデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	グラフィックデザイン2：パッケージデザインの機能と表現	予習：パッケージデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	タイポグラフィ	予習：タイポグラフィに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	レイアウト	予習：レイアウトに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	ビジュアルアイデンティティシステム (VIS)	予習：ビジュアルアイデンティティシステムに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	モバイルアプリのユーザーエクスペリエンス (UX) のデザインプロセス	予習：モバイルアプリのユーザーエクスペリエンスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	モバイルアプリのUXデザインのためのペーパープロトタイプとワークショップ	予習：モバイルアプリのUXデザインのためのペーパープロトタイプに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	モバイルアプリのUXデザインのための実践ワークショップ	予習：モバイルアプリのUXデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	ウェブデザインの対象と関連技術	予習：ウェブデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	ウェブデザインの制作プロセス	予習：ウェブデザインの制作に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	ウェブデザインのプロトタイプと検証	予習：ウェブデザインのプロトタイプに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	プロセス考察	予習：ウェブデザインのプロセスに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	コンピューターと映像・音楽 映像・音楽デザインとそのプロセス	予習：コンピューターの映像・音楽に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	インタラクティブな表現とそのプロセス	予習：インタラクティブな表現に関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認しておく。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
毎回レポートを課し、その提出状況と内容に表れる授業内容の理解度を基準に評価する。			

8	色彩論 LCD-TH-104	必修 2単位 1年後期	
	Color Theory		
1年全組 非常勤講師 伊藤 真市			
授業の達成目標		授業形態	
カラーコーディネーター・色彩検定につながる色彩や配色の基礎を学ぶ。色彩検定は企業の商品開発、販売促進、CIなどの製造、流通、販売における各段階、公共空間のデザインや街づくり、都市計画の分野など、色彩の心理的効果等を重視した適切な色彩をコーディネートできる人材を育成することを目的としている。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一括に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
テキストに沿った色彩の科学的な理論と表現を講義し、それらの基本的な能力を体系的に理解を深めていく。テキスト、パネル、スライド、色立体、配色カードなどを用いて色彩理論を視覚的に理解できるように学習する。授業では、色彩の活用、景観の調和への応用など実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		** ○ 教職科目 (工業)	
		○ 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス・色彩論について	予習：関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	色の世界のひろがり	予習：色についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや関連するキーワードを確認して復習する。	4
第3回	色彩と生活について	予習：色彩と生活について関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容を確認して復習する。	4
第4回	光と色について	予習：光と色について関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや関連するキーワードを確認して復習する。	4
第5回	光源による色の見え方	予習：光源による色の見え方についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容を確認して復習する。	4
第6回	色の三属性・PCCSについて	予習：色の三属性・PCCSについてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第7回	色の分類と体系化について	予習：色の分類と体系化についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第8回	色の混色について	予習：色の混色についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第9回	色の見えについて	予習：色の見え方についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第10回	色の対比について	予習：色の対比についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第11回	色彩調和と基本について	予習：色彩調和についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第12回	配色の秩序について	予習：配色の秩序についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第13回	色彩計画と色の役割	予習：色彩計画 (色の役割) についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：テキストや授業中の内容を確認して復習する。	4
第14回	ファッションの色の役割について	予習：ファッションの色の役割についてテキストからに関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容を確認して復習する。	4
第15回	まとめと試験	教科書および授業中に話した内容などを復習し、試験に臨む。	4
教科書・参考書等			
教科書 「デザインの色彩」 中田満雄・北畠 耀・細野尚志 著 日本色彩研究所監修			
参考書 授業内容に応じて随時提示する			
成績評価方法・基準			
授業中に課す実習課題 (20%) と試験 (80%) で評価する。			

9	アイデア基礎および同演習Ⅱ	LCD-TC-103	必修 3単位 1年後期
Ideation and Exercises II			
1年全組 教授 堀江 政広 教授 坂手 勇次			
授業の達成目標		授業形態	
個人でのアイデア発想法を理解し、実践できるようになること。グループでの発想法を理解し、ブレインストーミングを実践し、グループディスカッションができるようになること。絵によるアイデア発想法ができるようになること。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
個人でのアイデア発想法と、ブレインストーミングの基本、グループでのアイデア発想法について学ぶ。絵でアイデアを伝えるブレインストーミングとアイデア展開の手法を習得する。授業では、幅広い分野でアイデア創出の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について		担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンスとPDCAサイクルの解説	予習：関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第2回	FNSサイクルの解説	予習：FNSサイクルに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第3回	ブレインストーミングの基本	予習：ブレインストーミングに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第4回	ブレインストーミングの高度テクニック	予習：ブレインストーミングのテクニックに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第5回	アイデアソンの解説とアイデアの熟成と生成	予習：アイデアソンに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第6回	アイデアソンのアイデアスケッチとレビュー	予習：アイデアソンのアイデアスケッチに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第7回	アイデアソンの実践2 アイデアスケッチとレビュー、チームビルディング	予習：アイデアソンのアイデアスケッチに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第8回	アイデアソンの実践2 アイデアスケッチとレビュー、チームビルディング	予習：アイデアソンのアイデアスケッチとチームビルディングに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第9回	アイデアソンの実践3 発展プレスト	予習：アイデアソンの発展プレストに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第10回	アイデアソンの実践4 ブラッシュアップ	予習：アイデアソンのブラッシュアップに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第11回	アイデアソンの実践5 プレゼンテーションデータの作成	予習：第5回から第9回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第12回	アイデアソンの実践6 プレゼンテーションのリハーサル	予習：前回の授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第13回	最終プレゼンテーション1 (グループ前半)	予習：発表するプレゼンテーションについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第14回	最終プレゼンテーション2 (グループ後半)	予習：発表するプレゼンテーションについて調べる。 復習：配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	5
第15回	まとめ	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認しておく。	5
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
中間の提出物 (40%) と最終プレゼンテーション (60%) による。			

10	表現技術および同演習Ⅱ LCD-TC-104		必修	3単位	1年後期
	Expression Technique and Exercises II				
1年全組 教授 梅田 弘樹 非常勤講師 大塚 敬 教授 大矢 隆一 准教授 盧 慶美					
授業の達成目標				授業形態	
主にアナログ技術による基本的な描写・表現手法を活用し、単純な立体物の構想と表現ができるようになる。色彩に関する基本的理論を活用し、目的に合った色彩表現ができるようになる。				<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
				<input checked="" type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)
					オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
					クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要				該当科目	
立体物の表現技術（投影図法、透視図法、マーカースケッチ）および色彩表現のための理論（色相環、対比、配色、ハーモニーなど）を、具体的な作品制作を通して学ぶ。授業は1組、2組に分かれ、並列に開かれる「立体表現」「色彩表現」の双方の演習を1/2の期間（7回）ずつ全て受講する。					教職科目（工業）
					地域志向科目
実務経験を活かした教育について				<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
(梅田) 担当教員は、プロダクトデザイナーとしての経験にもとづき、立体物の構想と表現に必要な具体的技術を指導する。 (盧) 担当教員は、民間での色彩に関する業務経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。					アクティブラーニング
授業計画（各回の学習内容等）					
	学習内容（授業方法）		学習課題（予習・復習）		時間(時)
第1回	立体表現1：正投影図法と等角投影図法（アイソメトリック）の基礎（梅田）		予習：投影図法に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第2回	立体表現2：等角投影図法の応用、マーカー着色1：明暗での立体感の表現（梅田）		予習：等角投影図法に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第3回	立体表現3：曲面の表現、透視図法（パースペクティブ）の基礎（梅田）		予習：透視図法に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第4回	立体表現4：透視図法の応用、マーカー着色2：質感の表現（梅田）		予習：マーカー着色に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第5回	立体表現5：ここまでの復習（梅田）		予習：第1回から第4回までのキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第6回	立体表現6：「ドライヤー」を描く1：等角投影図法、マーカー着色の応用（梅田）		予習：第1回から第4回までのキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第7回	立体表現7：「ドライヤー」を描く2：透視図法、マーカー着色の応用、ディテールの表現（梅田）		予習：第1回から第4回までのキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第8回	色彩表現1：PCCS24色相環の作成（盧）		予習：PCCS24色相環に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第9回	色彩表現2：色相对比（盧）		予習：色相对比に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第10回	色彩表現3：明度対比（盧）		予習：明度対比に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第11回	色彩表現4：類似色相配色（盧）		予習：類似色相配色に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第12回	色彩表現5：光の三原色（盧）		予習：光の三原色に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第13回	色彩表現6：補色色相配色（ダイアード）・隣接補色色相配色（盧）		予習：補色色相配色、隣接補色色相配色に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第14回	色彩表現7：ナチュラルハーモニーとコンプレックスハーモニー（盧）		予習：ナチュラルハーモニーとコンプレックスハーモニーに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。		5
第15回	まとめ（梅田・盧）		予習：これまでの配付資料と自分の作品を確認しておく。 復習：講評の内容をまとめる。		5
教科書・参考書等					
自作資料。					
成績評価方法・基準					
各課題ごとに作品の提出を課し、その提出状況とそれに表れる各表現技術の原理の理解度を基準に評価する。					

11	デザインセミナーⅢ LCD-SC-201	必修 1単位 2年前期	
	Introduction to Design Studies Ⅲ		
2年全組 全教員			
授業の達成目標		授業形態	
地域企業・団体でのデザイン業務の実態を知り、各自の進路に対する考えを深める。幅広い業界・職種を進路対象として考えられるようになる。グループワークにおいて、グループの意見形成に貢献する力を身につける。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
地域を拠点に様々な分野で活動するゲスト講師による講演を聴講する。ゼミごとの小グループでディスカッションを行い、講演から得られた情報のポイントを確認して各自がレポートにまとめる。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	就職ガイダンス (全体)	予習：就職活動に関する一般的な情報を調べる。 復習：講義に対する自分の考えをまとめる。	1
第2回	就職ガイダンスに関するディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第3回	外部講師講演 1	予習：講演者に関する情報を集める。 復習：講義から得たことをまとめる。	1
第4回	外部講師講演 1に関するディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第5回	外部講師講演 2	予習：講演者に関する情報を集める。 復習：講義から得たことをまとめる。	1
第6回	外部講師講演 2に関するディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第7回	中間まとめ・ディスカッション	予習：ここまでの学習内容を振り返っておく。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第8回	外部講師講演 3	予習：講演者に関する情報を集める。 復習：講義から得たことをまとめる。	1
第9回	外部講師講演 3に関するディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第10回	外部講師講演 4	予習：講演者に関する情報を集める。 復習：講義から得たことをまとめる。	1
第11回	外部講師講演 4に関するディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第12回	最終レポート作成 1	予習：レポートの構成を考える。 復習：レポートの内容を推敲する。	1
第13回	最終レポート作成 2	予習：レポートの残り部分の構成を考える。 復習：レポートの内容を推敲する。	1
第14回	最終レポートの発表とディスカッション	予習：発表・ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第15回	まとめ	予習：レポートを完成させる。 復習：学んだ内容を継続的に意識するよう心掛ける。	1
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
レポートの内容、グループワーク参加に対する積極性の度合いを元に、総合的に評価する。			

12	デザイン論Ⅲ LCD-TH-201	必修 2単位 2年前期	
	Theory of Design Ⅲ		
2年全組 教授 大矢 隆一 教授 梅田 弘樹 教授 坂手 勇次		准教授 盧 慶美 助教 阿部 寛史	
授業の達成目標		授業形態	
デザイン対象の幅広さを学び、現代社会におけるデザインの有効性、意義を理解する。		単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
多様なデザイン対象の中から、デザイン思考、工芸、プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン、タイプフェイスデザインについて、それぞれがどのような考え方や手法によって実際に行われているか、具体的な事例を織り交ぜながら解説する。		※ ○ 教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
(梅田) 担当教員は、プロダクトデザイナーとしての実績と経験にもとづき、製品デザインの一般的プロセスとその各段階で重要となる考え方や技術について概説する。		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	タイプフェイスデザイン1	予習: タイプフェイスデザイン (歴史) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	タイプフェイスデザイン2	予習: タイプフェイスデザイン (表現) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	タイプフェイスデザイン3	予習: タイプフェイスデザイン (機能) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	デザイン思考 (基礎)	予習: デザイン思考に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	デザイン思考 (応用)	予習: デザイン思考の応用に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	デザイン思考 (演習)	予習: デザイン思考を実践するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	工芸 - 日本の用と美	予習: 工芸 (日本の用と美) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	工芸 - 日本の色	予習: 工芸 (日本の色) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	工芸 - 公共デザインされた町	予習: 工芸 (公共デザインされた町) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	プロダクトデザイン1: コンセプトと造形	予習: プロダクトデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	プロダクトデザイン2: 生産技術とデザイン	予習: プロダクトデザイン (生産技術とデザイン) に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	プロダクトデザイン3: プロダクトデザインの実際	予習: プロダクトデザインの実際に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	ユニバーサルデザイン (基礎)	予習: ユニバーサルデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	ユニバーサルデザイン (演習)	予習: ユニバーサルデザインの演習に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	ユニバーサルデザイン (これからの社会とデザイン)	予習: これからのユニバーサルデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習: これまでの配付資料などを確認しておく。	4
教科書・参考書等			
自作資料。			
成績評価方法・基準			
毎回レポートを課し、その提出状況と内容に表れる授業内容の理解度を基準に評価する。			

13	エディトリアルデザイン論	LCD-TH-202	必修 2単位 2年前期
	Editorial Design 2年全組 准教授 古川 哲哉		
授業の達成目標		授業形態	
エディトリアルデザイン（紙面構成）の基礎と歴史を学ぶ。そのことによって紙面の基本的な設計を習得し、また紙面表現における評価の指針となる知識を身につける。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
ページレイアウトを意味するエディトリアルデザインは、言葉と図や写真による情報を整理し、正しく、解りやすく伝える行為である。その基礎的な用語とルールを学ぶ。また、エディトリアルデザインの歴史を学ぶことで、今日のエディトリアルデザインを理解したい。授業は各回毎に若干の時間を利用し、各自で制作してもらった豆演習や、筆記の豆テストを行う。		<input type="radio"/> 教職科目（工業） <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について		担当教員は、民間企業での出版・デザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	概要：エディトリアルデザイン	予習：エディトリアルデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第2回	基礎：本の種類、綴り方、大きさ比率	予習：本の種類や綴り方に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第3回	基礎：上製本の各部分の名称	予習：上製本に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第4回	基礎：書体について、文字のつくりについて、文字の単位	予習：書体・文字のつくりに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第5回	基礎：ページを構成する要素	予習：ページを構成する要素に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第6回	歴史：聖書、教会（薔薇の名前）	予習：聖書・教会（薔薇の名前）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第7回	歴史：グーテンベルク、新聞の登場	予習：グーテンベルクに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第8回	歴史：デザイン運動	予習：デザイン運動に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第9回	歴史：ペーパーバック、文庫本、雑誌	予習：ペーパーバック、文庫本、雑誌に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第10回	歴史：インターネット、現在	予習：インターネットに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第11回	レイアウトルール：組版	予習：組版に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第12回	レイアウトルール：写真、図	予習：レイアウトルール（写真・図）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第13回	レイアウトルール：フォーマット	予習：レイアウトルール（フォーマット）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第14回	評価・判断：エディトリアルデザインの評価・判断	予習：エディトリアルデザインの評価・判断に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。豆演習・豆テストなどの課題は、次週全体にフィードバックする。	4
第15回	評価・判断：美しさについて	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認しておく。	4
教科書・参考書等			
自作資料。 参考書 【編集デザインの発想法】 ヤン・V・ホワイト著・大竹 左紀斗監修・訳 【はじめての編集】 菅付雅信著			
成績評価方法・基準			
豆演習・豆テスト70%、レポート30%で評価する。			

14	表現技術および同演習Ⅲ LCD-TC-201		必修 4単位 2年前期
	Expression Technique and Exercises Ⅲ		
2年全組 教授 篠原 良太 准教授 長崎 智宏 助教 阿部 寛史			
授業の達成目標			授業形態
映像デザインの基本的概念の理解と、3D コンピュータグラフィクスおよびプログラミング表現の習得する。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
絵コンテ、撮影、編集といった、映像デザインに必要な考え方を学ぶことで、時間軸を意識した表現を行う基礎力を身につける。またその基礎を応用し、モーショングラフィクスや3DCGによる作品制作、プログラミングを用いた対話的な映像表現を実践的に学ぶ。最終的にはこうした表現をWebのコンテンツとしてまとめ、インターネットで公開するまでの一連のデザインプロセスを習得する。授業では、メディアを用いた表現デザイン分野の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	オリエンテーション/コンピュータデザイン・プログラミング準備	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第2回	3DCG (1)：プリミティブモデリング・手続き型モデリング基礎	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第3回	3DCG (2)：ポリゴンモデリング基礎	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第4回	3DCG (3)：ライティング・レンダリング基礎・作品完成	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第5回	映像 (1)：映像編集基礎	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第6回	映像 (2)：モーションタイポグラフィ基礎	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第7回	映像 (3)：実写合成基礎・作品完成	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第8回	プログラミングと表現 (1)：図形の描画	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：簡単な図形を考案し描画する。	6
第9回	プログラミングと表現 (2)：アニメーション	予習：身の回りの動きについて、その特徴を観察する。 復習：様々なアニメーションを考案し描画する。	6
第10回	プログラミングと表現 (3)：繰り返しとパターン	予習：身の回りの模様について、パターンがあるかリサーチする。 復習：様々なパターンを考案し描画する。	6
第11回	プログラミングと表現 (4)：ランダムとノイズ	予習：前回の講義で指示のあった資料を確認する。 復習：ランダムとノイズを使った図案を考案し描画する。	6
第12回	プログラミングと表現 (5)：音楽を作る	予習：好きな音楽の「リズム」をリサーチする。 復習：リズムパターンのプログラミング方法を確認する。	6
第13回	プログラミングと表現 (6)：音楽を作る	予習：身の回りにある映像につけられた「効果音」をリサーチする。 復習：プログラミングで効果音を作成する方法を確認する。	6
第14回	オンラインポートフォリオ (1)：素材編集・Web編集基礎	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習する。	6
第15回	オンラインポートフォリオ (2)：Web編集・オンラインポートフォリオ完成	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：ノートや配付資料等を確認して復習し、最終提出用の作品を完成させる	6
教科書・参考書等			
自作の資料を使用。			
成績評価方法・基準			
4つの課題 (1.3DCG 2.映像 3.プログラミング 4.サウンドデザイン) と、それらをまとめたオンラインポートフォリオで総合的に評価する。			

15	デザインセミナーⅣ LCD-SC-202	必修 1単位 2年後期	
Introduction to Design Studies IV 2年全組 全教員			
授業の達成目標 地域の企業・団体でのデザイン業務の実態を理解し、卒業後の進路に対する具体的方針を定める。グループワークにおいて、より良い成果を達成するための力を身につける。進路を考える上でのポートフォリオの重要性を理解する。	授業形態 <input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要 仙台および周辺エリアを拠点とする企業を訪問し、デザイン業務の実態を見学する。その後ゼミごとのグループディスカッションを通して、得られた情報の分析・考察を行い、各自の進路に対する具体的方針をレポートにまとめる。eラーニングによるポートフォリオ作成講座を受講し、各自のポートフォリオを作成する。	該当科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目		
実務経験を活かした教育について	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス (全体)	予習：就職活動に関する一般的な情報を調べる。 復習：講義に対する自分の考えをまとめる。	1
第2回	企業見学調査1：情報収集	予習：対象企業に関する情報を集める。 復習：得られた情報をまとめる。	1
第3回	企業見学調査2：情報共有・ディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第4回	企業見学実施1	予習：見学時の調査のポイント、対象企業に対する質問を整理する。 復習：見学から得られたことをまとめる。	1
第5回	企業見学実施2	予習：見学時の調査のポイント、対象企業に対する質問を整理する。 復習：見学から得られたことをまとめる。	1
第6回	企業見学まとめディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果のまとめ。	1
第7回	ポートフォリオ講座受講1：基礎	予習：ポートフォリオについて調べる。 復習：講義の内容をまとめる。	1
第8回	ポートフォリオ講座受講2：実践	予習：自分のポートフォリオの内容を考える。 復習：講義の内容をまとめる。	1
第9回	ポートフォリオ講座受講3：応用	予習：自分のポートフォリオ作成に向けて準備する。 復習：講義の内容をまとめる。	1
第10回	ポートフォリオ作成1：基本構成	予習：ポートフォリオの基本コンセプトを考える。 復習：基本構成を完成させる。	1
第11回	ポートフォリオ作成2：素材収集	予習：ポートフォリオに載せる素材を集める。 復習：素材の取捨選択をし、決定する。	1
第12回	ポートフォリオ作成3：レイアウト	予習：各ページのレイアウトの準備をする。 復習：レイアウトの見直しをする。	1
第13回	ポートフォリオ作成4：仕上げ	予習：ポートフォリオ完成に向けて準備をする。 復習：完成したポートフォリオをeラーニングに提出する。	1
第14回	ポートフォリオ講座フィードバック検証	予習：eラーニングのフィードバックを確認しておく。 復習：フィードバックに対する対策を話し、ポートフォリオの完成度を高める。	1
第15回	まとめディスカッション	予習：ディスカッションの準備。 復習：ディスカッションの結果と授業を通して学んだことのまとめ。	1
教科書・参考書等 なし。			
成績評価方法・基準 レポートとポートフォリオの内容、グループワーク参加に対する積極性の度合いを元に、総合的に評価する。			

16	情報デザイン論 LCD-TH-204	必修 2単位 2年後期	
	Theory of Information Design		
2年全組 教授 両角 清隆 教授 堀江 政広			
授業の達成目標		授業形態	
人々の活動と情報の関係を理解し、情報のデザインを行うときに考慮すべき要素や枠組みを学ぶ。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
「ものごと」を形にする「情報デザイン」が生まれた背景や歴史、最新の動向を学ぶ。また、情報デザインの核となる種々の分野に共通する「コミュニケーションと理解の形態」について学ぶ。さらに、情報デザインを形作る要素となる人々の活動と、関連するICT（情報伝達技術）との関係を学ぶ。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	私たちの未来？“Googlezon”（両角）	予習：人にとって『情報』とは何かを考えてくる。 復習：“Googlezon”の可能性と課題について。	4
第2回	情報の歴史（1）情報とは、生物と情報（両角）	予習：生物が生きることと情報の関係を調査。 復習：生物と情報の関係についてまとめる。	4
第3回	情報の歴史（2）文字の発明（両角）	予習：文字はなぜ生まれたかの調査。 復習：文字の人間社会への影響についてまとめる。	4
第4回	情報の歴史（3）国家と宗教（両角）	予習：食の生産方式の変遷の調査。 復習：文化・文明はどのように継承されるかについてまとめる。	4
第5回	情報の歴史（4）メディアとコミュニケーション（両角）	予習：『メディア』とは何かについての調査。 復習：メディアがコミュニケーションに与える影響についてまとめる。	4
第6回	情報の歴史（5）生産方式とメディア（両角）	予習：近大はいつから始まったかの調査。 復習：大量生産とメディアの発達についてまとめる。	4
第7回	情報の歴史（6）コミュニケーションと社会（両角）	予習：インターネットが社会生活に与えた影響の調査。 復習：インターネットが社会生活に与えた影響についてまとめる。	4
第8回	情報の歴史（7）総括（両角）	予習：情報の歴史の振り返り。 復習：今後どのような社会を作っていくべきかについてまとめる。	4
第9回	インターネットについての哲学的考察（堀江）	予習：検索エンジンを利用し、「遠隔学習」、「テレプレゼンス」、「バーチャルコミュニティ」について調べる。 復習：インターネットについて批判的思考で分析する。	4
第10回	人間の認知特性（1）モデルを作る生物（両角）	予習：誰のためのデザイン1章。 復習：ユーザーの行動についてまとめる。	4
第11回	人間の認知特性（2）誤る生物（両角）	予習：誰のためのデザイン2章。 復習：自然な対応付けについてまとめる。	4
第12回	人間の認知特性（3）合理的な生物（両角）	予習：誰のためのデザイン3章・4章。 復習：『制約』を適切に利用した道具を探す。	4
第13回	人々の活動と情報の特性（両角）	予習：誰のためのデザイン5章・6章。 復習：よく誤る例を挙げ、その原因を分析する。	4
第14回	ICTとデザインの課題（両角）	予習：誰のためのデザイン7章。 復習：適切な人とモノのかかわり方をまとめる。	4
第15回	まとめと試験（両角）	講義全体について資料を確認。 復習：講義内容の自分の専門への適用方法を考える。	4
教科書・参考書等			
教科書	「誰のためのデザイン」D.A. ノーマン著 新曜社		
参考書等	「情報の歴史を読む」松岡正剛著 NTT出版 「生命を捉えなおす生きている状態とは何か」清水 博著 中公新書 「インターネットについて 哲学的考察」ヒューバート・L・ドレイファス 産業図書		
成績評価方法・基準			
毎回提出を課すレポートの内容と、ステップごとのレポートおよび試験の点数で評価する。			

17	生活と素材 LCD-TH-205	必修 2単位 2年後期	
	Products and Materials of Life Environment		
2年全組 教授 梅田 弘樹			
授業の達成目標		授業形態	
生活の中で使われる様々な工業製品の素材の特性について「使い方」と「作り方」の両面からの知識を習得する。また、各素材の加工・成形方法の原理を知ること、もの作りのプロセス全般とデザインの関係について理解する。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		○ 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		○ クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
工業製品の素材の物理的・感覚的特性と、それらの加工・成形技術について、プラスチック、金属、陶磁器、ガラス、木材といった材料の種類ごとに学ぶ。具体的な製品・部品の実例に触れ、生産現場の動画を見ることで生産技術の原理を学び、それぞれに適した製品の形態・構造はどのようなものかを理解する。また、関連トピックス(例:エコロジー)を通し、材料・生産技術という観点からデザインが社会に及ぼす影響についても考察する。		※ ○ 教職科目(工業)	
		○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、プロダクトデザイナーとして様々な製品のデザイン業務に従事した実績と経験にもとづき、製品をデザインする際に必要な素材とそれを用いた生産技術に関する知識およびその原理を理解することの重要性を説く。			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	素材と生産技術を学ぶ意義	予習:素材と生産技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	素材としてのプラスチック	予習:素材としてのプラスチックに関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	プラスチックの成形1(型による成形)	予習:プラスチックの型による成形に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	プラスチックの成形2(その他の成形技術)	予習:プラスチックのその他の成形技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	素材としての金属	予習:素材としての金属に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	金属の加工1(鑄造・鍛造・プレス)	予習:金属の加工(鑄造・鍛造・プレス)に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	金属の加工2(その他の加工技術)	予習:金属のその他の加工技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	素材としての陶磁器とその成形1(量産技術)	予習:陶磁器の成形技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	陶磁器の成形2(手作りの技術)	予習:陶磁器の手作り技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	素材としてのガラスとその成形1(量産技術)	予習:ガラスの成形技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	ガラスの成形2(手作りの技術)	予習:ガラスの手作り技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	素材としての木材とその加工1(量産技術)	予習:木材の成形技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	木材の加工2(手作りの技術)	予習:木材の手作り技術に関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	材料・生産技術とデザイン・社会・生活	予習:材料・生産技術とデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習:配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第15回	まとめと試験	予習:試験に備え、これまでの授業内容をまとめる。 復習:試験問題でわからなかったところを調べる。	4
教科書・参考書等			
参考書 「素材加工事典」アイ・シー・アイデザイン研究所ほか 誠文堂新光社 「工業デザインのための材料知識」岩井正二・青木弘行 日刊工業新聞社 「モノができる仕組み事典」成美堂出版			
成績評価方法・基準			
毎回の講義後に課されるレポートの内容と、期末試験の点数を総合的に評価する。			

18	デザイン計画および同実習A	LCD-AP-201	必修	5単位	2年後期
	Design Planning and Practice A				
2年全組 全教員 非常勤講師 大久 僚一					
授業の達成目標			授業形態		
デザインプロセスのおおまかな流れを理解し、アイデアを実現するための基本技術を活用できるようになる。			<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)	
			<input type="radio"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
				オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
				クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目		
アイデア基礎および同演習と、表現技術および同演習で習得した知識・技術をベースに、幅広い分野（グラフィックデザイン・イラストレーション・Webデザイン・アプリケーション・プロダクトデザイン・映像・工芸）から自分の適性にあった課題を選択し、実習形式で具体的なデザイン手法を習得する。また、東北地域を意識したデザインテーマに取り組むことで、地域の課題をデザインで解決する手法を考える。授業では、ウェブデザイン分野の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/>	教職科目（工業）	
			<input type="checkbox"/>	地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当	
			<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）					
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）			時間(時)
第1回	デザイン計画基礎：課題整理	予習：デザインの基礎に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第2回	デザイン計画基礎：課題検討	予習：デザイン計画基礎に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第3回	デザイン計画基礎：アイデア展開	予習：デザイン計画（アイデア展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第4回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（展開）	予習：基本デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第5回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（精緻化）	予習：基本デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第6回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（展開）	予習：応用デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第7回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（精緻化）	予習：応用デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第8回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第9回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第10回	デザイン計画応用：検証	予習：デザイン計画応用の検証に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第11回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（展開）	予習：実践デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第12回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（精緻化）	予習：実践デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第13回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第14回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション	予習：最終プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
第15回	デザイン計画実践：総括・リフレクション	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。			7
教科書・参考書等					
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。					
成績評価方法・基準					
プレゼンテーションおよび提出作品により総合的に評価する。					

19	キャリアデザイン I	LCD-SC-301	必修 1単位 3年前期
	Career Design I 3年全組 全教員		
授業の達成目標		授業形態	
デザイナー・クリエイターになるために必要なキャリアとは何かを理解し、自己の能力と適性を判断する。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
広い意味でのデザイナー・クリエイターとしての自己のキャリアの可能性を考える。過去の講義で学んだ自己の能力を整理し、実際のプロの仕事を知ること、自己の適性を正しく把握する。		<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
		<input type="checkbox"/>	教職科目 (情報)
		<input type="checkbox"/>	地域志向科目
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
		<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	キャリアデザインとは	予習：キャリアデザインに関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第2回	デザイン業界情報収集	予習：デザイン業界情報を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第3回	デザイン業界の研究	予習：デザイン業界に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第4回	デザイン系企業 / 職種の研究	予習：デザイン系企業 / 職種に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第5回	自己分析	予習：自己分析に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第6回	個人面談、自己分析	予習：自己分析を元に個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己分析を深める。	1
第7回	個人面談、自己分析	予習：自己分析を元に個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己分析を深める。	1
第8回	自己分析まとめ	予習：自己分析結果をまとめておく。 復習：配付資料などを確認する。	1
第9回	自己アピール (準備)	予習：自己アピールの準備をする。 復習：配付資料などを確認する。	1
第10回	自己アピール (実践)	予習：自己アピールの準備をする。 復習：配付資料などを確認する。	1
第11回	個人面談、ポートフォリオ作成	予習：ポートフォリオをまとめておく。 復習：面談内容を振り返り、ポートフォリオをブラッシュアップする。	1
第12回	個人面談、ポートフォリオ作成	予習：ポートフォリオをまとめておく。 復習：面談内容を振り返り、ポートフォリオをブラッシュアップする。	1
第13回	ポートフォリオアドバイス	予習：ポートフォリオを最終化して提出しておく。 復習：アドバイス、配付資料などを確認する。	1
第14回	ポートフォリオアドバイス	予習：ポートフォリオを最終化して提出しておく。 復習：アドバイス、配付資料などを確認する。	1
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
提出を課すレポート (60%)、ポートフォリオの内容 (40%) で評価する。			

20	デザイン計画および同実習 B LCD-AP-301		必修 5単位 3年前期
	Design Planning and Practice B		
3年全組 全教員 講師 坂川 侑希			
授業の達成目標			授業形態
デザインプロセスのおおまかな流れを理解し、アイデアを実現するための基本技術を活用できるようになる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
アイデア基礎および同演習と表現技術および同演習で習得した知識・技術をベースに、幅広い分野（グラフィックデザイン・イラストレーション・Webデザイン・アプリケーション・プロダクトデザイン・映像・工芸）から自分の適性にあった課題を選択し、実習形式で具体的なデザイン手法を習得する。また、東北地域を意識したデザインテーマに取り組むことで、地域の課題をデザインで解決する手法を考える。授業では、ワークショップのデザイン研究や映像概論と実制作、グラフィックデザイン業務、Webアプリデザインの分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input checked="" type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	デザイン計画基礎：課題整理	予習：デザインの基礎に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第2回	デザイン計画基礎：アイデア展開	予習：デザイン計画（アイデア展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第3回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（展開）	予習：基本デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第4回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（精緻化）	予習：基本デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第5回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（展開）	予習：応用デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第6回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（精緻化）	予習：応用デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第7回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第8回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第9回	デザイン計画応用：検証	予習：デザイン計画応用の検証に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第10回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（展開）	予習：実践デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第11回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（精緻化）	予習：実践デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第12回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第13回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション	予習：最終プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第14回	デザイン計画実践：総括・リフレクション	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
教科書・参考書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
成績評価方法・基準			
プレゼンテーションおよび提出作品により総合的に評価する。			

21	キャリアデザインⅡ	LCD-SC-302	必修 1単位 3年後期
	Career Design Ⅱ 3年全組 全教員		
授業の達成目標		授業形態	
自分の能力を客観的に判断できるようにする。また、それを実際のプロの仕事にどのようにマッチングさせるかを習得する。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="radio"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
自分の過去を振り返り未来のあるべき姿を予測し、さらに自分の適性などを考えて、具体的な目標を作って行く。考える参考として、実際に企業に入った場合や起業した場合などの実例を挙げ、これから自分で道を拓けるように、今後実行すべきことを理解する。		<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
		<input type="checkbox"/>	教職科目 (情報)
		<input type="radio"/>	地域志向科目
		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	キャリア形成とは	予習：キャリア形成に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第2回	自己分析	予習：自己分析に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第3回	個人面談・自己分析	予習：自己分析を元に個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己分析を深める。	1
第4回	個人面談・自己分析	予習：自己分析を元に個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己分析を深める。	1
第5回	業界 / 企業 / 職種の研究	予習：自己分析結果を元に、業界 / 企業 / 職種に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第6回	業界 / 企業 / 職種の研究	予習：自己分析結果を元に、業界 / 企業 / 職種に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第7回	個人面談・自己アピール	予習：自己アピールをまとめて個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己アピールポイントを整理する。	1
第8回	個人面談・自己アピール	予習：自己アピールをまとめて個人面談に備える。 復習：面談内容を振り返り、自己アピールポイントを整理する。	1
第9回	コミュニケーション力の向上 (個人)	予習：コミュニケーション力の向上 (個人) に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第10回	コミュニケーション力の向上 (グループワーク)	予習：コミュニケーション力の向上 (グループワーク) に関連する事項を調べる。 復習：配付資料などを確認する。	1
第11回	模擬演習	予習：模擬演習に備えて自己アピールポイントをまとめておく。 復習：配付資料などを確認する。	1
第12回	合同演習	予習：合同演習に備えて自己アピールポイントをまとめておく。 復習：配付資料などを確認する。	1
第13回	個人面談・ポートフォリオ作成	予習：ポートフォリオをまとめておく。 復習：配付資料などを確認する。	1
第14回	個人面談・ポートフォリオ作成	予習：ポートフォリオをまとめておく。 復習：配付資料などを確認する。	1
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
提出を課すレポート (50%)、ポートフォリオの内容 (50%) で評価する。			

22	デザイン計画および同実習C	LCD-AP-302	必修 5単位 3年後期
	Design Planning and Practice C		
3年全組 全教員 非常勤講師 三浦 博文 講師 坂川 侑希			
授業の達成目標		授業形態	
デザインプロセスのおおまかな流れを理解し、アイデアを実現するための基本技術を活用できるようになる。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
アイデア基礎および同演習と表現技術および同演習で習得した知識・技術をベースに、幅広い分野（グラフィックデザイン・イラストレーション・Webデザイン・アプリケーション・プロダクトデザイン・映像・工芸）から自分の適性にあった課題を選択し、実習形式で具体的なデザイン手法を習得する。また、東北地域を意識したデザインテーマに取り組むことで、地域の課題をデザインで解決する手法を考える。授業では、設計開発とワークショップのデザイン研究で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/>	教職科目（工業）
		<input type="checkbox"/>	教職科目（情報）
		<input type="checkbox"/>	地域志向科目
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
		<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	デザイン計画基礎：課題整理	予習：デザインの基礎に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第2回	デザイン計画基礎：アイデア展開	予習：デザイン計画（アイデア展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第3回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（展開）	予習：基本デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第4回	デザイン計画基礎：基本デザイン制作（精緻化）	予習：基本デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第5回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（展開）	予習：応用デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第6回	デザイン計画応用：応用デザイン制作（精緻化）	予習：応用デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第7回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第8回	デザイン計画応用：中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第9回	デザイン計画応用：検証	予習：デザイン計画応用の検証に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第10回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（展開）	予習：実践デザイン制作（展開）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第11回	デザイン計画実践：実践デザイン制作（精緻化）	予習：実践デザイン制作（精緻化）に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第12回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第13回	デザイン計画実践：最終プレゼンテーション	予習：最終プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
第14回	デザイン計画実践：総括・リフレクション	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	7
教科書・参考書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
成績評価方法・基準			
プレゼンテーションおよび提出作品により総合的に評価する。			

23	クリエイティブデザイン研修 I LCD-AP-401		必修 3単位 4年前期
	Undergraduate Design Study I 4年全組 全教員		
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研究であり、4年間の総仕上げでもある。具体的には、指導教員の研究室に所属し、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめて発表する行為を通じて、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得させる。		<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
		<input type="checkbox"/>	教職科目 (情報)
		<input type="checkbox"/>	地域志向科目
		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	卒業研究について (オリエンテーション)	予習: 過去の卒業研修を見ておく。 復習: 研究テーマのアイデア出し。	3
第2回	研究課題の検討 (背景と目的と方法)	予習: 解決すべき問題を探す。 復習: 研究目的の設定。	3
第3回	研究課題の検討 (背景と目的と方法)	予習: 解決すべき問題を探す。 復習: 研究目的を定め、方法を考える。	3
第4回	各テーマに関する資料の収集と基礎理論の学習	予習: テーマに関連する情報収集。 復習: 情報の整理。	3
第5回	研究方法、制作手段、実験方法、調査方法の検討	予習: 各種手法の調査。 復習: 自分の研究に合った手法の考察。	3
第6回	調査、研究、制作、実験などの計画立案	予習: 日程の確認。 復習: 研究計画の立案。	3
第7回	調査、研究、制作、実験などの諸準備	予習: 材料・道具・技術に関する調査。 復習: 必要なアイテムの検討。	3
第8回	予備実験、予備調査、制作など	予習: 調査対象に関する情報収集と調査計画。 復習: 調査結果のまとめ。	3
第9回	予備実験結果、予備調査結果、制作結果などの検討	予習: 調査・制作結果の検討準備。 復習: 検討結果の考察。本調査・制作のポイントのまとめ。	3
第10回	調査、研究、制作、実験など	予習: 予備調査・制作の反省。 復習: 調査・制作・実験。	3
第11回	調査、研究、制作、実験など	予習: 予備調査・制作の反省。 復習: 調査・制作・実験。	3
第12回	報告書の作成	予習: これまでの成果のまとめ。 復習: 報告書を完成させる。	3
第13回	発表会の準備	予習: プレゼンテーションデータの整理。 復習: プレゼンテーションデータを完成させる。	3
第14回	発表会	予習: プレゼンテーションの準備。 復習: 指摘事項のまとめ。	3
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
テーマの設定、方法、手段の妥当性、テーマの分野、性格、位置づけの認識度、進捗状況と後期への準備状況等を基準に総合的に評価する。			

24	クリエイティブデザイン研修Ⅱ LCD-AP-402		必修 3単位 4年後期
	Undergraduate Design Study II 4年全組 全教員		
授業の達成目標		授業形態	
特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得し、活用できるようになること。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
本科目は卒業研究であり、4年間の総仕上げでもある。具体的には、指導教員の研究室に所属し、個人もしくは共同で、特定のテーマに基づいた「論文」または「作品」を主体的にまとめる作業を通じて、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という論理的方法を修得させる。 また、学内の発表会、学外の発表会を実施し、研究・制作と社会とのつながりを理解させる。		<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
		<input type="checkbox"/>	教職科目 (情報)
		<input type="checkbox"/>	地域志向科目
		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について		<input type="checkbox"/>	アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	本実験、本調査などの実施または作品制作	予習：前期の成果のまとめ。 復習：実験・調査・制作。	3
第2回	本実験、本調査などの実施または作品制作	予習：これまでの成果の考察。 復習：実験・調査・制作。	3
第3回	分析と追加実験、追加調査などの実施または作品制作	予習：これまでの成果の考察。 復習：実験・調査・制作と詳細検討。	3
第4回	分析と追加実験、追加調査などの実施または作品制作	予習：これまでの成果の考察。 復習：実験・調査・制作と詳細検討。	3
第5回	分析と追加実験、追加調査などの実施または作品制作	予習：これまでの成果の考察。 復習：実験・調査・制作と詳細検討。	3
第6回	論文の構成または制作内容の検討	予習：論文・制作の構成検討。 復習：論文・制作の構成決定。	3
第7回	論文作成または作品制作	論文作成・作品制作。	3
第8回	論文作成または作品制作	論文作成・作品制作。	3
第9回	論文作成または作品制作	論文作成・作品制作。	3
第10回	論文の総括または作品の仕上げ	詳細の調整。	3
第11回	論文の総括または作品の仕上げ	詳細の調整。	3
第12回	研修発表の準備	予習：プレゼンテーションデータの整理。 復習：プレゼンテーションデータを完成させる。	3
第13回	口頭発表会	予習：プレゼンテーションの準備。 復習：指摘事項のまとめ。	3
第14回	学外展示会準備	予習：展示会の計画。 復習：必要アイテムの準備。	3
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
実験、調査、分析、制作の学習度、内容構成の妥当性、目標とゴールの関連度、論文または作品の完成度、口頭発表の明快度、展示の完成度等を基準に、総合的に評価する。			

25	インフォグラフィックス LCD-TH-203	選択 2単位 2年前期
Theory of Infographics		
2年全組 非常勤講師 木村 博之		
授業の達成目標 インフォグラフィックスとはインフォメーションとグラフィックスをかけあわせた造語で、すべてのデザイン領域に大きく関係する。図解やグラフ、地図、アイコンなど情報を形にしたものはすべてインフォグラフィックスである。言葉では伝わりにくいものでも、絵や図で説明すると簡単に理解できることが多く、コミュニケーションのための重要な手段になっている。伝えたいことをどのように工夫すると相手に適切に伝えることができるかを、表現することを通じて技術として身につける。	授業形態 <input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要 授業はワークショップスタイルで行う。伝えたいことをどのように工夫すると相手にうまく伝わるようになるのかを、表現する要素をひとつずつ確認しながらステップアップして技術を身につける。授業では、インフォグラフィックスの専門家で図やグラフ表現の分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。	該当科目 <input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について 担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。	<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)		
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習) 時間(時)
第1回	インフォグラフィックスとは	予習：自分の周りのうまい伝達手段を考えてくる。 復習：目に飛び込んでくる「情報」の伝え方を考えながら帰宅する。 4
第2回	インフォグラフィックスをつくる時の5つの要素	予習：何が自分を引きつけたか、もっと良くするにはどうすれば良いかを考えてくる。 復習：5つの要素に情報を分解してみる。 4
第3回	UXと視点の移動	予習：分かりづらいモノを1つ見つけてくる。 復習：分かりやすくなる視点を見つける。 4
第4回	想像して簡単なスケッチをしてみる	予習：漫画作品の描写を見てくる。 復習：自分のスケッチをもっと良くする方法を考える。 4
第5回	コンセプトやアイデアを考える	予習：コンセプトとは何かを考えてくる。 復習：相手を説得するアプローチを考える。 4
第6回	観察とコンセプト	予習：観察することの意味を考えてくる。 復習：観察、調査、インタビューを実践してみる。 4
第7回	しかけの作り方・見せ方	予習：「仕掛ける」と「乗せられる」について考えてくる。 復習：他の人に簡単な仕掛けを試してみる。 4
第8回	コンセプトに焦点をあてたプレゼンテーション	予習：プレゼンの失敗と成功の実例を考えてくる。 復習：2分、3分、5分などの時間を身体で覚える。 4
第9回	グラフィックファシリテーション	予習：他人が見ても分かりやすいスケッチの方法を考えてくる。 復習：テレビなどで誰かの会話を絵にしてみる。 4
第10回	データを選び、情報に変える	予習：何かについてのデータを3つ集めてくる。 復習：データの選び方の重要性を考える。 4
第11回	見えないものをカタチにする	予習：見えないが、大切なモノ、コトを考えてくる。 復習：なんでも見える化してみる。 4
第12回	グラフィックファシリテーションに焦点をあてたプレゼンテーション	予習：相手を乗せる方法を考えてくる。 復習：会話のときは絵を描いて伝えるように極力つとめる。 4
第13回	コンセプトデザインについてディスカッション	予習：コンセプトとは何かを再確認する。 復習：何事においても自分の言いたい柱をハッキリさせる。 4
第14回	グラフィックファシリテーションについてディスカッション	予習：グラフィックファシリテーションとは何かを再確認する。 復習：どんな絵、どんな描き方で相手が納得するか試してみる。 4
第15回	総括・リフレクション	予習：伝える上で何が重要なのかを、これまでの授業を振り返って考えてくる。 復習：最低1年は会話や授業内容をスケッチする癖をつける。 4
教科書・参考書等 「インフォグラフィックス」 木村博之著 誠堂新光社		
成績評価方法・基準 レポート・制作物による評価。		

26	デッサンおよび同演習 LCD-TC-202	選択 3単位 2年前期	
Drawing and Exercises 2年全組 非常勤講師 荒井 俊也			
授業の達成目標 立体物を観察し形を正確に把握して平面上に表現する技術を身につける。モチーフの質感の描き分け、正確な空間把握、表現する技術の向上を目標とする。	授業形態 <input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要 モチーフを見て描く行為(鉛筆デッサン・クロッキー)を通して観察力と表現力を鍛え、すべての造形の基礎となるデッサン力を身につける。授業では、立体の把握と表現の基礎の分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。	該当科目 <input type="checkbox"/> 教職科目(工業) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地域志向科目		
実務経験を活かした教育について	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(予習・復習)	時間(時)
第1回	オリエンテーション、静物デッサン①(ガラス瓶)あたりと構図	作業中に学んだことを記述しデッサンの練習をしておくこと。	5
第2回	静物デッサン②(靴)構図と空間	技法書の構図に関する箇所を読んでおくこと。家にある瓶のスケッチをしておくこと。	5
第3回	静物デッサン③(ガラス瓶と靴)あたりと構図	技法書のハッチングに関する箇所を読んでおくこと。家にある靴のスケッチをしておくこと。	5
第4回	静物デッサン④(ガラス瓶と靴)形と陰影	技法書の陰影に関する箇所を読んでおくこと。家にある瓶と靴のスケッチをしておくこと。	5
第5回	静物デッサン⑤(ガラス瓶と靴)仕上げ・合評会	今までの指摘箇所について振り返り記述しておくこと。講評された点について記述しておくこと。	5
第6回	石膏デッサン(メディチ)①あたりと構図	メディチの全身像と作者について調べておくこと。技法書の石膏デッサンの構図に関する箇所を読んでおくこと。	5
第7回	石膏デッサン(メディチ)②鉛筆による表現	技法書の石膏デッサンの表現に関する箇所を読んでおくこと。自分の顔を鏡で見てデッサンの練習をしておくこと。	5
第8回	石膏デッサン(メディチ)③形と陰影	技法書の石膏デッサンの陰影に関する箇所を読んでおくこと。身近なものをモチーフにデッサンの練習をしておくこと。	5
第9回	石膏デッサン(メディチ)④仕上げ・合評会	今までの指摘箇所について振り返り記述しておくこと。講評された点について記述しておくこと。	5
第10回	石膏デッサン(マルス)①あたりと構図	マルスのデッサンの作例の構図を複数見ておくこと。身近なものをモチーフにデッサンの練習をしておくこと。	5
第11回	石膏デッサン(マルス)②鉛筆による表現	マルスの全身像と製作意図について調べておくこと。身近なものをモチーフにデッサンの練習をしておくこと。	5
第12回	石膏デッサン(マルス)③陰影と形	人体の構成に関する本を見ておくこと。身近なものをモチーフにデッサンの練習をしておくこと。	5
第13回	石膏デッサン(マルス)④仕上げ・合評会	今までの指摘箇所について振り返り記述しておくこと。講評された点について記述しておくこと。	5
第14回	クロッキー①(コスチューム)	家族や友人に協力してもらいクロッキーの練習をしてくる。また、練習を継続すること。	5
第15回	クロッキー②(ヌード)・まとめ	家族や友人に協力してもらいクロッキーの練習をしてくる。また、練習を継続すること。	5
教科書・参考書等 なし。初回より制作に入るの、2B・4Bの鉛筆数本、カッターナイフ、消しゴムを準備すること。			
成績評価方法・基準 提出作品により総合的に評価する。			

27	インタラクションデザイン論	LCD-TH-206	選択 2単位 2年後期
Theory of Interaction Design			
2年全組 教授 両角 清隆			
授業の達成目標		授業形態	
ユーザーがシステム・ツールとどのようにやり取り（インタラクション）を行なっているかを理解し、どこに課題があるかを分析し、改善をおこなうことができるようにすることを目標とする。また、このことを通じて、現代のデザイナーの役割の役割を理解できるようにする。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当)	
		<input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		<input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		<input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
携帯電話・端末などを対象に、実際のインタラクションの分析を行い、やり取りに存在するユーザーの行動の共通性や原理の見つけ方、システムの問題点の分析方法、デザインの改善方法についての技術を習得する。		<input type="radio"/> 教職科目（工業）	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
民間企業のデザイン部門で実務経験のある教員が、ユーザーと商品・システムのインタラクション分析から改善を行う実務経験を活かして、ユーザーが使いやすい商品・システムの提案ができるように教授する。		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	新しいデザインの課題を知る	予習：操作に係る問題の調査。 復習：課題を知る方法の整理。	4
第2回	ユーザーの行動を知るための方法	予習：スマートフォン等の問題の把握。 復習：発話思考法の理解。	4
第3回	インタラクション課題抽出実験準備	予習：課題のある操作フローの準備。 復習：実験方法の確認。	4
第4回	インタラクション課題抽出実験	予習：実験準備。 復習：操作の書き起こし。	4
第5回	課題抽出実験の分析（1）問題の記述	予習：主な課題の整理。 復習：問題点の整理方法の理解。	4
第6回	課題抽出実験の分析（2）問題のまとめ	予習：実験レポート作成。 復習：主な課題の表現方法。	4
第7回	分析結果プレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備。 復習：指摘事項の整理。	4
第8回	リデザインの方法	予習：リデザイン案の作成。 復習：リデザインの方法の整理。	4
第9回	学習内容：仮説の検証方法	予習：問題のある操作フローの把握。 復習：モックアップ制作方法の理解。	4
第10回	検証の準備	予習：モックアップの制作。 復習：検証実験の準備。	4
第11回	インタラクションデザイン検証実験	予習：検証実験の準備。 復習：検証実験の書き起こし。	4
第12回	検証結果の分析（1）、（参考文献）シナリオ法・ペルソナの設定	予習：問題の分析。 復習：仮説の検証方法の理解。	4
第13回	検証結果の分析（2）、（参考文献）目標主導型のデザイン	予習：問題の分析（詳細）。 復習：操作のモデル化の理解。	4
第14回	検証結果の発表、（参考文献）デザイナーの役割	予習：発表準備。 復習：指摘事項の理解。	4
第15回	総括、リフレクション	予習：インタラクションデザインの流れの理解。 復習：実験・分析から改善するプロセスの理解。	4
教科書・参考書等			
自作資料 参考文献「コンピュータは、むずかしすぎて使えない」アラン・クーパー著 翔泳社			
成績評価方法・基準			
毎回提出を課すレポートの内容と、ステップごとの提出物およびプレゼンテーションの内容で評価する。			

28	エルゴノミクス	LCD-TH-207	選択 2単位 2年後期
Ergonomics			
2年全組 教授 大矢 隆一			
授業の達成目標			授業形態
人間の諸機能とその特性を理解し、デザインワークができるようになること。単純に負担を少なくするだけでなく、人間本来の能力を維持し、高めることにも配慮したデザインができるようになること。			<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当)
			<input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)
			<input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			<input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
人間の適応能力や潜在能力など本来備えている諸機能とその特性、心理的、生理的視点からの測定方法、人間とモノや環境との関係、人間が起こすエラーなどについて解説する。人間とモノとの関係について十分に理解した上で、人間にふさわしいモノづくりについて学ぶ。適宜、簡単な演習を取り入れ理解を深める。			<input type="radio"/> 教職科目 (工業)
			<input type="radio"/> 地域志向科目
			<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について			<input type="radio"/> アクティブラーニング
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	エルゴノミクスの歴史	エルゴノミクスの歴史について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第2回	ヒューマンスケール	ヒューマンスケールについて予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第3回	感覚の基本的特性	人間の感覚について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第4回	視覚、聴覚、味覚、嗅覚	視覚・聴覚などについて予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第5回	エルゴノミクスにおける心理事象	心理的評価方法について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第6回	エルゴノミクスにおける生理反応評価	生理反応の基礎的測定方法について予習する。 授業で提示された問題を解き復習する。	4
第7回	これまでのまとめと中間試験	これまでの学修内容を復習し、中間試験に備える。 中間試験について復習する。	4
第8回	日本人と道具	日本における道具の変遷について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第9回	姿勢と道具	姿勢と道具との関係について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第10回	あかりと空間	あかりと空間について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第11回	使いやすさとデザイン	使いやすさについて予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第12回	障害者、高齢者に対応したデザイン	障害者・高齢者とデザインについて予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第13回	標準化と道具	標準化と道具について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第14回	まとめ	これまでの内容について予習する。 授業で提示された問題を解き、復習する。	4
第15回	試験	これまでの学習を復習し試験に備える。 配付された解答例により、試験を復習する。	4
教科書・参考書等			
教科書 適宜プリントを配付するので、教科書は指定しない。 参考書 中島利誠 (編著) : 生活と技術 ライブラリー生活の科学7 コロナ社 2002			
成績評価方法・基準			
6～7回のレポート50%、試験50%で評価する。			

29	ユニバーサルデザイン	LCD-TH-208	選択	2単位	2年後期
	Universal Design				
2年全組 教授 中島 敏 ほか					
授業の達成目標			授業形態		
わが国は、もののデザインや品質、さらに安全性での評価の高いことで諸外国から受け入れている。そして高齢化社会を迎えている現代社会では、高齢者と福祉、障がい者と福祉の概念のもとに、安全性やユニバーサルデザインの手法が大きく関わっている。この授業では、ものの安全の考え方とユニバーサルデザインを理解できることを目標とする。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要			該当科目		
高齢者社会の生活空間では、生活に必要な道具とそれらを取り込んでいる外部空間や内部空間が存在しているが、高齢者や障がい者にとって決して使いやすい道具や空間のデザインが十分に備わっているとは言い難い。従って、これから益々弱者に相応しい道具や空間のデザインが要求される。講義では生活の中で使用している様々な道具とそれらを取り囲んでいる空間を紹介しつつ、ものの安全とユニバーサル型のデザインに相応しいかを解説する。真に安全で安心で豊かな社会形成のためのあるべき姿の基礎をここでは学ぶ。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
実務経験を活かした教育について					
授業計画 (各回の学習内容等)					
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)		時間(時)	
第1回	高齢者や障がい者の生活道具に関する概論	製品の安全とその事業者の責任についての関係を予習 / 高齢者や障がい者の実態調査と実際の道具との関係を復習する。		4	
第2回	製品の安全の考え方と事業者の責任	製品による事故防止のための事業者の対応についての予習 / 製品の安全とその事業者の責任についての関係を復習する。		4	
第3回	製品による事故防止のための事業者のあり方	製品による事故防止のための消費者の対応についての予習 / 製品による事故防止のための事業者のあり方を復習をする。		4	
第4回	製品事故の具体的な事例の分析と対応策	製品による事故防止のための消費者のあり方についての予習 / 製品事故の具体的な事例の分析と対応策についての復習をする。		4	
第5回	製品による事故防止のための消費者のあり方	「P L 検定」の予習 / 製品による事故防止のための消費者の対応についての復習をする。		4	
第6回	製品の事故防止のまとめと「P L 検定」学習	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とP L の関係を予習 / 「P L 検定」の復習をする。		4	
第7回	道具のユニバーサルデザインとそのP L とは	道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具との関係を予習 / 道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具とP L の関係を復習する。		4	
第8回	道具のバリアフリーとは	移動式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を予習 / 道具とバリアフリーの実態調査と実際の道具との関係を復習する。		4	
第9回	移動式日用品の事例	固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を予習 / 移動式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。		4	
第10回	固定式日用品の事例	高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を予習 / 固定式日用品の実態把握と日用品を使用した際の関係を復習する。		4	
第11回	高齢者や障がい者の生活空間に関する概論	生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での予習 / 高齢者や障がい者の生活する空間についての関係を復習する。		4	
第12回	生活空間のバリアフリーとは	生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での予習 / 生活空間のバリアフリーを自分の生活との関係での復習をする。		4	
第13回	生活空間のユニバーサルデザインとは	外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を予習 / 生活空間のユニバーサルデザインを居住生活との関係での復習をする。		4	
第14回	生活空間 (外部公共空間) と道具との関係事例	全体を振り返り、試験についての予習 / 外部公共空間をバリアフリーにする道具との関係を復習する。		4	
第15回	まとめと試験	全体を振り返りまとめを行う。		4	
教科書・参考書等					
「ユニバーサルデザインの教科書」中川 聡 日経P B社 「住環境のB F / U D」野村歓編者 彰国社					
成績評価方法・基準					
課題レポート、まとめの試験を総合的に評価する。					

30	モデリングおよび同演習 LCD-TC-203	選択 3単位 2年後期	
	Modeling and Exercises		
2年全組 非常勤講師 荒井 俊也			
授業の達成目標		授業形態	
立体物を観察し形を正確に把握して粘土で再表現する技術を身につける。立体物の構造の理解、正確な空間把握、表現する技術の向上を目標とする。		○ 単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
粘土による立体物の模刻を通して観察力と表現力を鍛え、すべての造形の基礎となる立体におけるデッサン力を身につける。授業では、立体の把握と表現の基礎の分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		教職科目 (工業)	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	〈オリエンテーション〉模刻のためのデッサン	関連図書に目を通しておくこと。 作業中に感じたことを記述しておくこと。	5
第2回	ピーマンの模刻① (粗付け)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第3回	ピーマンの模刻② (形の追求)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第4回	ピーマンの模刻③ (仕上げ)・合評会	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第5回	レモンの模刻① (粗付け)	関連図書に目を通しておくこと。 作業中に感じたことを記述しておくこと。	5
第6回	レモンの模刻② (形の追求)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第7回	レモンの模刻③ (仕上げ)・合評会	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第8回	サザエの模刻① (粗付け)	関連図書に目を通しておくこと。 作業中に感じたことを記述しておくこと。	5
第9回	サザエの模刻② (形の追求)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第10回	波のイメージを表現する① (粗付け)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第11回	波のイメージを表現する② (形の追求・仕上げ)・合評会	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第12回	靴の模刻① (粗付け)	関連図書に目を通しておくこと。 作業中に感じたことを記述しておくこと。	5
第13回	靴の模刻② (形の追求)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第14回	靴の模刻③ (形の追求)	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
第15回	靴の模刻④ (仕上げ)・合評会	前回の作業で受けた指摘箇所を整理してくること。 作業中に感じたこと学習したことを記述しておくこと。	5
教科書・参考書等			
なし。初回より制作に入るのので、2B・4Bの鉛筆数本、カッターナイフ、消しゴムを準備すること。			
成績評価方法・基準			
提出作品によって総合的に評価する。			

31	音と動きのデザイン LCD-TH-301		選択 2単位 3年前期
	Design of Sound and Movement		
3年全組 非常勤講師 菊地 聡 非常勤講師 那須 尚平			
授業の達成目標			授業形態
人間が感じる「動き」や「音」の特性を理解し、そのデザインの方法を修得する。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input checked="" type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
<p>「動きのデザイン」では、身の回りにある映画、テレビ、ネット等映像コンテンツをサンプルに、1) 時間軸を使って「わかりやすく」伝える術とそのしくみを学ぶ。2) 文章と映像のリンク等、映像表現の原理原則を身につける。3) 画像に音をつける映像演出の体験を情報デザイン力に結びつける。</p> <p>「音のデザイン (SoundDesign)」では、「音」の本質を知ることにより、生活に役立つ音 (機能音) や表現手段 (効果音) としてコントロールすることが出来るようになる。また、ロック、ポップス、クラシック等の音楽に関して理解を深めることにより、クリエイターとしての教養を身につける。コラボレーションライブ演習では、グループで「動き」、「音」のデザインを総合的に演出、短編映像にライブで音をアフレコし、制作体験をしてもらう。授業では、音楽やコンテンツ制作の分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。</p>			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	オリエンテーション～「動きのデザイン1」 「映像づくりの歴史と科学」(菊地・那須)	予習：身の回りの映像 / 音メディアの役割を考える。 復習：映像の単位、要素について確認。	4
第2回	「動きのデザイン2」～「体験マジックロール」～映像の組立てとアニメのウォーミングアップ (菊地)	予習：映像で音はどう機能してるのかを考える。 復習：マジックロールで動きはどう描けば伝わりやすいか。	4
第3回	「動きのデザイン3」～「台本のつくりかた」映像の文法～“文章と映像”のリンク関係を探る (菊地)	予習：グループワークのスタッフ組みと分担。 復習：文章編集とカット割りの基本を確認。	4
第4回	「動きのデザイン4」～映像制作体験1～青空文庫から短編マジックロールアニメをつくる「台本・絵コンテ」作成 (菊地)	予習：青空文庫からアニメ化する作品を選んでおく。 復習：作業を分担し合理的に制作する工夫。	4
第5回	「動きのデザイン5」～映像制作体験2～「アニメ素材完成、撮影、編集指示書」作成 (菊地)	予習：提出に備えアニメ素材を仕上げる。 復習：完成台本をグループで配付し演出表現を共有する。	4
第6回	「動きのデザイン6」～試写1 (台本読み合わせ) (菊地)	予習：読みやすいよう台本を工夫、読み手に指示出し進行する練習をする。 復習：動画と読み合わせた結果を、コラボレーションライブ演習での音の構成演出に活かす。	4
第7回	「音のデザイン1」～映像と音楽 (那須)	予習：身の回りにある音メディアについて整理する。 復習：様々なメディアのコンテンツを、音と音楽の視点から分析してみる。	4
第8回	「音のデザイン2」～音を分析、コントロールする (那須)	予習：生活の中での音の効果进行分析する。 復習：音の本質を理解し、日常生活の中での音の役割を分析してみる。	4
第9回	「音のデザイン3」～芸術と大衆音楽について (那須)	予習：環境音と機能音の理解と分析。 復習：生活の中で耳にする音楽の分析。	4
第10回	「音のデザイン4」～音の歴史と音楽の歴史 (前半) (那須)	予習：様々な音楽の中の動機と主題を分析してみる。 復習：コラボレーションライブに向けた準備。	4
第11回	「音のデザイン5」～音の歴史と音楽の歴史 (後半) (那須)	予習：身近な音楽の主題を分析してみる。 復習：コラボレーションライブに向けた音楽素材の確認。	4
第12回	「音のデザイン6」～映像の中での音楽的效果 (那須)	予習：これまで学習した分析手法で様々な音楽を分析してみる。 復習：コラボレーションライブに向けた音楽素材の最終確認。	4
第13回	コラボレーションライブ演習1 (試写2～ライブで音付け) (菊地・那須)	予習：試写1をもとに台本と演出の調整、音の準備、リハーサルする。 復習：音付けでストーリーと感情が伝わったか、グループごとの作品評価をする。	4
第14回	// ライブ演習2 (試写2? ライブで音付け (後半))・完成試写 (菊地・那須)	予習：前半音付けした作品、試写1をもとに台本と演出の調整、音の準備、リハーサル。 復習：完成試写で感じた各作品の良い点、改善点を記録し、感情を伝えるメディアづくりをどう自分のデザイン研究に活かすかまとめる	4
教科書・参考書等			
自作資料、データ、DVD等の資料音声、映像。			
成績評価方法・基準			
個々の授業内および課題レポート (50%)、グループワークではコラボ演習課題の制作過程、作品内容 (50%) によって総合評価をする。評価合計 60 点以上を合格とする。授業内レポートは次回授業時に全体に対してフィードバック、課題レポートは返却時に評価コメントを添付する。コラボ演習では試写時に講評をする。< 遠隔授業の場合にはグループワークは実施せず個人演習の内容とし、13、14 回目を (菊地・那須) によるコラボ講義とそのレポート評価とする >			

32	広告論 LCD-TH-302	選択 2単位 3年前期	
Theory of Advertisement			
3年全組 非常勤講師 伊藤 光弘			
授業の達成目標	広告コミュニケーションの目的と全体像、および各コミュニケーション手段（媒体）の特性を把握して、作り手の視点で広告を理解できること。	授業形態	
		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当)	
		<input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当)	
		<input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要	広告という行為をとりまく環境や広告・コミュニケーション手法の実情を知り、広告コミュニケーションを企画するうえで考えるべき要素を認識し、各手法・媒体の特性と表現方法を理解する。授業では、商業的・実践的なデザイン分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。	該当科目	
		<input type="checkbox"/> 教職科目（工業）	
		<input type="checkbox"/> 教職科目（情報）	
		<input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について	担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。	<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	業界概観～広告の歴史・広告業界の仕組み・今起きている変化など	広告の歴史や仕組みについて各自下調べをしておく。これまで印象に残った広告となぜ印象に残ったのか、その理由を考察する。	4
第2回	広告における「戦略」について	普段接しているメディアについて下調べしておくこと。講義内容をふまえ自分が普段接しているメディアについて考察する。	4
第3回	「インサイト」について	インサイトとは何かを下調べしておく。自分の好きなブランドの広告と何故好きなのかについてその理由を考察する。	4
第4回	広告の「場」＝マスメディア・販売促進について	印象的なキャンペーンについてその理由を考えておくこと。講義内容をふまえマスメディア・販売促進について考察する。	4
第5回	広告の場としてのウェブ空間について	印象的なウェブ上の広告についてその理由を考えておくこと。講義内容をふまえウェブ広告について考察する。	4
第6回	企画を考える上で課題解決のアイデアについて	課題とはいったい何か？について考えておくこと。講義内容をふまえ企画のアイデア出しをシミュレーションをする。	4
第7回	表現を考える上で課題解決のアイデアについて	自分の好きな広告を取り上げ、その広告の表現方法を考察しておくこと。講義内容をふまえ表現のアイデアについて考察する。	4
第8回	グラフィック広告の企画立案について	好きなグラフィック広告についてその企画意図を考えておくこと。講義内容をふまえグラフィック広告の企画立案を考察する。	4
第9回	グラフィック広告の表現計画について	好きなグラフィック広告についてその表現方法を考えておくこと。講義内容をふまえグラフィック広告の表現について考察する。	4
第10回	映像 / 音声メディアにおける企画立案について	好きなテレビ・ラジオCMについてその企画意図を考えておくこと。講義内容をふまえ映像 / 音声メディアの企画立案を考察する。	4
第11回	映像 / 音声メディアにおける表現計画について	好きなテレビ・ラジオCMについてその表現方法を考えておくこと。講義内容をふまえ映像 / 音声メディアの表現を考察する。	4
第12回	インタラクティブメディアについて	インタラクティブとは何か？下調べをしておく。講義内容をふまえインタラクティブメディアについてあらためて考察する。	4
第13回	loM (InternetofMe) 時代のコミュニケーションについて	インターネットが自分たちの生活をどのように変えようとしているのか考えをまとめ、コミュニケーションのあり方を考察する。	4
第14回	パブリック広告について	PRとはいったい何か？について事前に下調べをしておく。講義内容をふまえ公共広告について考察する。	4
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
講義の内容をふまえたレポートの提出を求めています。従って、レポート提出による評価が100%となります。その講義を理解した上で、自分なりにきちんと洞察ができていて、さらにそれを踏まえた上で自分なりの考察ができていかどうかを判断し、評価していきます。			

33	美術史 LCD-TH-303	選択 2単位 3年前期	
	History of Art		
3年全組 非常勤講師 和田 浩一			
授業の達成目標		授業形態	
デザインに活用できる知識として美術史を学ぶ。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当)	
		<input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
		<input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		<input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
各時代毎の社会や文化との関係から見た美術史を学習する。授業では、国内外の美術に関する豊富な知識経験を持つ外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業)	
		<input type="checkbox"/> 教職科目 (情報)	
		<input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当教員は、民間企業等での美術に関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	オリエンテーション、原始美術、古代オリエント美術	予習：原始美術、古代オリエント美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	ギリシャ・ローマ美術	予習：ギリシャ・ローマ美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	ビザンティン美術、初期中世美術	予習：ビザンティン美術、初期中世美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	ロマネスク美術、ゴシック美術	予習：ロマネスク美術、ゴシック美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	初期ルネサンス美術、15世紀の北方美術	予習：初期ルネサンス美術、15世紀の北方美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	盛期ルネサンス美術、マニエリスム、北方ルネサンス美術	予習：盛期ルネサンス美術、マニエリスム、北方ルネサンス美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	バロック美術、ロココ美術	予習：バロック美術、ロココ美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	新古典主義、ロマン主義、写実主義	予習：新古典主義、ロマン主義、写実主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	印象主義、象徴主義、後期印象主義	予習：印象主義、象徴主義、後期印象主義に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	20世紀の美術	予習：20世紀の美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	第二次世界大戦後の美術	予習：第二次世界大戦後の美術に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	現代アート	予習：現代アートに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	日本美術、先史・古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代	予習：日本美術、先史・古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	日本美術、鎌倉・南北朝時代、室町時代、桃山・江戸時代、近代、現代	予習：鎌倉・南北朝時代、室町時代、桃山・江戸時代、近代、現代に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認して各自要点をまとめ、疑問点があった場合、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
教科書・参考書等			
参考図書・レジュメについては、授業開始時もしくは適宜必要に応じて指示や配付を行う。			
成績評価方法・基準			
ミニレポートと期末レポートで評価する。			

34	インテリアデザイン	LCD-TH-304	選択 2単位 3年前期
	Interior Design		
3年全組 非常勤講師 梅田かおり			
授業の達成目標		授業形態	
インテリアデザインは、空間を室内側からとらえ、生活する人間の側に立って思考し造形する行為である。このため、人間の心理や行動といったソフト面から、人間的スケールでとらえた規模・形態・素材などのハード面まで、広範な知識を総動員する必要がある。当科目では、これを体系的に学び、基礎知識を身につけるとともに、室内空間計画の基礎的な技術を修得することをめざす。また、現代におけるビジネスの中でインテリアデザインがどのように位置づけられ、他のデザイン分野とどのように関わっているか、各空間でのトレンドは何かを知り、実社会でも役立つ知識を身につける。		単独 (1人が全回担当)	
		複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当)	
		○ オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
		クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
以下の5編で構成する。 1) 歴史：インテリアデザインとは何か？日本や世界の住まい・インテリア・家具・照明などの変遷過程を概説する。 2) ヒトを知る（人体）：住まいやインテリアの各種要素の規模形態を導出するための人間工学の意味と人体寸法及び人の知覚について解説する。3) ヒトを知る（心理）：形・色・テクスチャーなどが人に及ぼす心理について解説する。4) 材料を知る：床・壁・天井・窓・テキスタイル・家具・照明・材料と仕上について解説する。5) 空間をつくる：インテリアの材料と構成、計画について解説する。特に木材・家具については木工房で実際のものを見ながらの授業とする。		教職科目（工業）	
		教職科目（情報）	
		地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		○ 実務経験のある教員担当	
担当教員は照明デザイナーとして日本とフィンランドで様々な規模の空間の照明計画やデザイン、宮城の伝統工芸品や材料を使った商品企画に関わった経験を活かし、インテリアデザインに関わる実務への対応力を養成する。		アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	インテリアデザインとは何か	インテリアデザインの基本事項とプロセス、講義予定について概説する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアを確認する)	4
第2回	住まいとインテリア・家具の変遷：歴史(1)	住まいとインテリア・家具・照明の変遷について概説する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の空間を確認する)	4
第3回	人間工学と人体寸法：ヒトを知る（人体1）	人間工学と人体寸法について、実際に自分の体の寸法や感覚を確認しながら概説する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに人体寸法と自室の構成を確認する)	4
第4回	家具・設備と人間工学：ヒトを知る（人体2）	家具・設備と人間工学について概説する。また人体寸法からくるインテリアの安全性も考察する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具・設備と人体寸法を確認する)	4
第5回	材料と仕上の基礎：材料を知る(1)	インテリアデザインにおける材料と仕上の基礎を学ぶ。木工房にて木の材料に触れ、実際に加工がどうなされるのか機械やその利用を身近に見て体感し、木の性質に対する知識を深める。	4
第6回	家具のデザイン：材料を知る(2)	インテリアデザインの要素（エレメント）として、家具のデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の家具のデザインを観察・考察する)	4
第7回	形・色・テクスチャーと心理：ヒトを知る（心理1）	形・色・テクスチャーと心理について考察する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の形・色・テクスチャーと心理について再考する)	4
第8回	光と照明器具：材料を知る(3)	インテリアデザインの要素として、照明計画及び照明器具の基礎を学ぶ。光が物や空間の見えにどう影響を及ぼすかを詳しく解説する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：自宅の照明を見直してみる。)	4
第9回	床・壁・天井と仕上のデザイン：材料を知る(4)	インテリアデザインの要素（エレメント）として、床・壁・天井のデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の床・壁・天井のデザインを観察・考察する)	4
第10回	窓・戸・テキスタイルと仕上のデザイン：材料を知る(5)	インテリアデザインの要素（エレメント）として、窓・テキスタイルのデザインの基礎を学ぶ。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅の窓・戸・テキスタイルのデザインを観察・考察する)	4
第11回	インテリアデザインの原則：空間をつくる(1)	インテリアデザインを考える際のかたちやプロポーショナルについて考察する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアデザインと安全性について再考する)	4
第12回	内部空間とインテリアデザインのプロセス：空間をつくる(2)	内部空間と外部空間のかかわりとインテリアデザインを考える際のプロセスや表現について考察する。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアデザインについて再考する)	4
第13回	空間別のインテリア：空間をつくる(3)	店舗・住宅・高齢者施設等、空間別のインテリアデザインの計画の基礎とトレンドを学ぶ。(予習：指定参考書を見ておく／復習：講義をもとに自宅のインテリアを観察・考察する)	4
第14回	インテリアデザイン・まとめと試験	これまでの講義内容を総括し、インテリアデザインへの関心を深める。(予習：講義ノートを再読しておく／復習：講義内容を総括する)	4
教科書・参考書等			
参考書 「インテリアデザイン教科書」彰国社・「インテリアの空間と要素をデザインする」彰国社・「木の教え」草思社			
成績評価方法・基準			
課題に関しては、次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。成績は課題の提出状況及び内容、期末試験等をもとに総合的に評価する。			

35 イラストレーション論 LCD-TH-305		選択 2単位 3年前期	
Theory of Illustration			
3年全組 教授 篠原 良太			
授業の達成目標		授業形態	
ビジュアルコミュニケーションの目的によって様々なスタイルがあるイラストレーションについて理解し、歴史的背景や時代感覚、求められる作家性の違いについて理解する。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
出版や広告デザイン分野で重要な立ち位置を占めるイラストレーション。その成り立ちから表現技法、各メディアにおける特性の違いについて、実例を通して解説する。また、イラストレーターに求められる作家性、あるいは匿名性についても解説する。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	概要・オリエン	予習：イラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第2回	歴史 1：海外におけるイラストレーション	予習：海外におけるイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第3回	歴史 2：日本におけるイラストレーション	予習：日本におけるイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第4回	職業として・業種として	予習：イラストレーション業界に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第5回	作家性と無名性	予習：作家性とイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第6回	テーマの解釈	予習：テーマとイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第7回	タッチ論 1：全般	予習：技法と表現 (タッチによる違い) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第8回	タッチ論 2：写実とデフォルメ	予習：写実・デフォルメ表現に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第9回	技法論 1：全般 (画材と画法による分類)	予習：イラストレーション技法に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第10回	技法論 2：3DCG	予習：デジタル表現に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第11回	媒体ごとの特性 1：広告・出版におけるイラストレーション	予習：広告・出版とイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第12回	媒体ごとの特性 2：コンテンツビジネスにおけるイラストレーション	予習：コンテンツビジネスとイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第13回	媒体ごとの特性 3：絵本におけるイラストレーション	予習：絵本とイラストレーションに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第14回	地域性と社会性／総括・まとめ	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：これまでの配付資料などを確認する。	4
教科書・参考書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
成績評価方法・基準			
テストおよび提出されたレポートにより評価する。			

36	エキスパートデザイン計画および同実習A LCD-TC-301		選択 3単位 3年前期
	Expert Design Planning and Practice A		
3年全組 全教員			
授業の達成目標			授業形態
デザインプロセスの流れを理解し、アイデアを実現するための応用技術を活用できるようになる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
デザイン計画および同実習で習得した知識・技術をベースに、少人数のゼミ形式で、より高いレベルのデザイン課題に実践的に取り組み、高度なデザイン手法を習得する。また、東北地域を意識したデザインテーマに取り組むことで、地域の課題をデザインで解決する手法を考える。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	エキスパートデザイン計画基礎：課題整理	予習：エキスパートデザイン計画基礎 (課題整理) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第2回	エキスパートデザイン計画基礎：アイデア展開	予習：エキスパートデザイン計画基礎 (アイデア展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第3回	エキスパートデザイン計画基礎：基本デザイン制作 (展開)	予習：基本デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第4回	エキスパートデザイン計画基礎：基本デザイン制作 (精緻化)	予習：基本デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第5回	エキスパートデザイン計画応用：応用デザイン制作 (展開)	予習：応用デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第6回	エキスパートデザイン計画応用：応用デザイン制作 (精緻化)	予習：応用デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第7回	エキスパートデザイン計画応用：中間プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第8回	エキスパートデザイン計画応用：中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第9回	エキスパートデザイン計画応用：検証	予習：エキスパートデザイン計画 (検証) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第10回	エキスパートデザイン計画実践：実践デザイン制作 (展開)	予習：実践デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第11回	エキスパートデザイン計画実践：実践デザイン制作 (精緻化)	予習：実践デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第12回	エキスパートデザイン計画実践：最終プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第13回	エキスパートデザイン計画実践：最終プレゼンテーション	予習：最終プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第14回	エキスパートデザイン計画実践：総括・リフレクション	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	5
教科書・参考書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
成績評価方法・基準			
提出作品により総合的に評価する。			

37	地域のくらしと生産	LCD-TH-306	選択 2単位 3年後期
	Regional Works and Industry		
3年全組 未定 菊地 良賢			
授業の達成目標		授業形態	
地域風土にねざしたくらしと、これを支える生産の意味を理解するとともに、有形無形の地域資源を評価することができる。また、その資源を活用した実践的事例についての知識を深め、とくに仙台・宮城・東北における活用展開を構想することができる。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
現代の地域社会では、地域内外の人々がくらしや生産の場面で協働しながら、豊かなコミュニティを形成することが求められており、とりわけ、少子高齢化・人口減少が課題となっている地域においては、周囲の自然環境までを含めた持続可能性が喫緊の課題となっている。本講義では、国内外における有形無形の地域資源の活用事例を紹介し、主に農山漁村のくらしの実像、その可能性と課題について、基礎知識を養う。事例は、主に仙台・宮城・東北の各地から求め、今後の地域資源活用方法についても考察を深めていく。授業では、実務経験のある外部講師を招き、より実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input checked="" type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	持続可能な地域社会における生産・生業・産業	講義の導入として、生産・生業・産業を複眼的に学ぶ意義を考える。予習：くらしと生産とは何かを考察しておく／復習：講義をもとに対象地域を地図等で確認する	4
第2回	有形無形の地域資源とその活用実践	くらしと生産を構築するための有形無形の地域資源について概説する。予習：地域資源として考えられるものを列挙する／復習：講義をもとに地元の有形無形資源を情報整理する	4
第3回	山林・中山間地域－地域資源と活用実践の事例的学習(1)	山林・中山間地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：山林・中山間地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書山林・中山間地域についてを一読する	4
第4回	里山地域－地域資源と活用実践の事例的学習(2)	里山地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：里山地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の里山地域についてを一読する	4
第5回	田園地域－地域資源と活用実践の事例的学習(3)	田園地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：田園地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の田園地域についてを一読する	4
第6回	漁村地域－地域資源と活用実践の事例的学習(4)	漁村地域の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：漁村地域とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の漁村地域についてを一読する	4
第7回	中心市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(5)	中心市街地の資源と活用実践について事例的に学習する。予習：中心市街地とは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の中心市街地についてを一読する	4
第8回	歴史的まちなみ－地域資源と活用実践の事例的学習(6)	歴史的まちなみの資源と活用実践について事例的に学習する。予習：歴史的まちなみとは何かを調べておく／復習：講義内容を確認し参考図書の歴史的まちなみについてを一読する	4
第9回	海外の市街地－地域資源と活用実践の事例的学習(7)	海外の市街地における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の市街地について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の市街地についてを一読する	4
第10回	海外の農山漁村－地域資源と活用実践の事例的学習(8)	海外の農山漁村における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：海外の農山漁村について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の海外の農山漁村についてを一読する	4
第11回	仙台・宮城・東北－地域資源と活用実践の事例的学習(9)	仙台・宮城・東北における資源と活用実践について事例的に学習する。予習：仙台・宮城・東北について関心を広げておく／復習：講義内容を確認し参考図書の仙台・宮城・東北についてを一読する	4
第12回	地域資源の活用方法	これまでの事例的学習をもとに、地域資源の活用方法について比較考察を行う。予習：これまでの学習事例を列挙整理しておく／復習：定性的データの比較法について復習する	4
第13回	地域のソフト的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のソフト的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のソフト的データを整理しておく／復習：演習したソフト的データの視覚的表現を改善する	4
第14回	地域のハード的価値と「見える化」	これまでの事例的学習をもとに、地域のハード的価値をどう伝えるかを考察・演習する。予習：各事例のハード的データを整理しておく／復習：演習したハード的データの視覚的表現を改善する	4
教科書・参考書等			
毎回の講義において次週以降の講義に関する資料および文献検索等の指示を行う。			
成績評価方法・基準			
講義で行うミニレポートと期末試験等により総合的に評価する。			

38	ユーザーリサーチ論	LCD-TH-307	選択 2単位 3年後期
	Theory of User Research		※ 2018年度以前入学生が対象
3年全組 非常勤講師 篠原 由樹			
授業の達成目標			授業形態
デザインにおけるユーザーリサーチの位置づけと背景となる理論、各種手法を理解し、自ら計画・実践できるようにすること。また、ユーザーリサーチの結果を活かしてデザインの発想ができるようになること。			<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
ユーザーの認知、行為、感情、生活実態を捉え、デザインの精度を高めるための技術を学ぶ。ユーザーとの関係の築き方、インタビューの仕方や質問紙の作り方、活動の記述と整理の方法、さらに、得られたデータからユーザーのニーズを理解・分析し、そこからアイデアを発想する方法などを、具体的な演習を体験しながら学ぶ。授業では、ユーザーの調査やそれに基づく改善の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input checked="" type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ユーザーリサーチとは何か	予習：ユーザーリサーチに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料を確認し、理解が不十分な点を質問事項としてまとめる。	4
第2回	デザインプロセスとユーザーリサーチ	予習：デザインプロセスとユーザーリサーチに関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料を確認し、理解が不十分な点を質問事項としてまとめる。	4
第3回	ユーザーの視点	予習：ユーザーの視点に関連するキーワードについて調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第4回	ユーザーリサーチの各種手法	予習：ユーザーリサーチの手法に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業で取り扱った手法について関連する事例を調べる。	4
第5回	観察の仕方	予習：観察の仕方に関連するキーワードについて調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第6回	人と経験を捉える視点	予習：人と経験を捉える視点について調べる。 復習：配付資料を確認し、理解が不十分な点を質問事項としてまとめる。	4
第7回	アンケート調査の概要	予習：アンケート調査に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料を確認し、理解が不十分な点を質問事項としてまとめる。	4
第8回	調査票の設計	予習：調査票の設計に関連するキーワードについて調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第9回	インタビュー調査の概要および計画	予習：インタビュー調査に関連するキーワードについて調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第10回	話の聞き方	予習：話の聞き方に関連するキーワードについて調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第11回	インタビュー調査の分析方法	予習：インタビュー調査の分析方法について調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第12回	グループによる共有と発想	予習：グループによる共有と発想について調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第13回	アイデア検証のための調査	予習：アイデア検証のための調査について調べる。 復習：演習内容を振り返り、得られた学びを書きだす。	4
第14回	企業における知識創造とユーザーリサーチ	予習：企業における知識創造とユーザーリサーチについて調べる。 復習：配付資料を確認し、活用方法を書き出す。	4
教科書・参考書等			
特定の教科書は使用せず、適宜、自作資料を配付します。 参考書①「発想する会社」世界最高のデザイン・プログラム IDEO に学ぶイノベーションの技法」トム・ケリー&ジョンサン・リットマン 2002年 早川書房 参考書②「デザインリサーチの教科書」木浦 幹雄 2020年 ビー・エヌ・エヌ新社 参考書③「ユーザーインタビューをはじめよう」スティーブ・ポーチガル 2017年 ビー・エヌ・エヌ新社			
成績評価方法・基準			
授業内容の理解を確認するレポート課題の品質により総合的に評価する。			

39	デザインマーケティング論	LCD-TH-308	選択 2単位 3年後期
	Theory of Design Marketing		
3年全組 准教授 下總 良則			
授業の達成目標		授業形態	
デザインとビジネスの関係をデザインの視点から理解し、ビジネスに不可欠なマーケティングという理論や手法をデザイン活動のなかで使いこなせることを目標とする。		<input type="checkbox"/>	単独 (1人が全回担当)
		<input type="checkbox"/>	複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)
			オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)
			クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要		該当科目	
デザイン計画に役立つマーケティングの理論や方法論を、具体的な事例を通して学び、企業からの外部講師による講演や、仙台・宮城の地元産業を題材としたグループワークなどの演習を通して、実践的なデザインマーケティングの思考力を養う。授業では、実践的なマーケティングの分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/>	教職科目 (工業)
			教職科目 (情報)
		<input type="checkbox"/>	地域志向科目
		<input type="checkbox"/>	実務経験のある教員担当
実務経験を活かした教育について		アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	【講義】マーケティングのフレームワークって、どう使う？	予習：フレームワークの概念について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第2回	【演習】ケースメソッド：3C分析	予習：3C分析について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第3回	【講義】隣の芝は青く見える、その影響は？	予習：世の中で、競合関係にある企業をいくつか調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第4回	【演習】ケースメソッド：5F分析	予習：5F分析について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第5回	【講義】独善的でない、お客さんにとっての価値を考える	予習：顧客の目線について思い馳せ、調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第6回	【演習】ケースメソッド：バリューチェーン分析	予習：バリューチェーン分析について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第7回	【講義】何を意識すれば、お客さんは買ってくれる？	予習：自分が使う商品のマーケティングの仕組みについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第8回	【演習】ケースメソッド：STP4P	予習：STP4Pについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第9回	【講義】マーケティングでの「戦い方」の定め方	予習：市場での、自分たちの強みについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第10回	【演習】ケースメソッド：ポジショニングマップ	予習：ポジショニングマップについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第11回	【講義】「自分たちが業界の最前線」の畏	予習：市場での、自分たちの歴史について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第12回	【演習】ケースメソッド：イノベーションのジレンマ	予習：イノベーションのジレンマについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第13回	【講義】授業内容を振り返る最終レポートの作成	予習：これまでの学びから気づいたことについて調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第14回	【演習】最終レポートの振り返り	予習：これまで学んだ内容について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
教科書・参考書等			
『ストーリーで学ぶ戦略思考入門』著：グロービス経営大学院、執筆：荒木博行			
成績評価方法・基準			
提出を課すレポート内容によって評価する。			

40	ディスプレイデザイン論	LCD-TH-309	選択	2単位	3年後期
	Theory of Display Design				
3年全組 非常勤講師 酒井 亨					
授業の達成目標			授業形態		
ディスプレイデザインの成り立ちや考え方、制作のプロセスを理解する。空間における作品展示の手法を理解する。			<input type="radio"/>	単独 (1人が全回担当)	
				複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当)	
				オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)	
				クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要			該当科目		
ディスプレイデザインの歴史や実例など様々な具体例を基に、デザイナーとして必要な知識・技能について解説する。授業では、ディスプレイデザイン業務に関する豊富な経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。				教職科目 (工業)	
				教職科目 (情報)	
				地域志向科目	
実務経験を活かした教育について			<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当	
永年、広範囲なディスプレイ (空間) デザイン実績があり現在も活動中のため、国内外の最新情報を各回の学習内容に最適化した授業をおこなう。東北、宮城、仙台での実務経験が多数あり、復興など地域志向の要素も盛り込んでいる。				アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)					
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)			時間(時)
第1回	ディスプレイデザインとは	15回の授業の概要説明、ディスプレイデザインのイメージを持つ。授業内容を復習する。			4
第2回	ディスプレイデザインの歴史・分類・役割	ディスプレイデザインの歴史、「新しい生活様式」時代に求められる要素を考える。授業内容を復習する。			4
第3回	ディスプレイデザインの実例 [ショーウィンドウ・ショールーム]	ショーウィンドウやショールームを体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感する。			4
第4回	ディスプレイデザインの実例とヴィジュアルマーチャングデザイン [商業施設]	商業施設を体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感し、商品陳列の具体的な手法を考える。			4
第5回	ディスプレイデザインの実例 [パブリックスペース]	パブリックスペースを体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感する。			4
第6回	ディスプレイデザインとグラフィックの実例	ディスプレイ空間におけるグラフィックデザインの要素、目的・機能などを考える。			4
第7回	ディスプレイデザインの実例 [エキシビジョン・イベント]	エキシビジョンやイベントを体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感する。			4
第8回	ディスプレイデザインの実例 [博物館]	博物館を体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感する。			4
第9回	ディスプレイデザインの実例 [万博・企業PR施設]	万博や企業情報空間を体感し、ディスプレイ要素を見つける。授業内容を加味して再体感する。			4
第10回	ディスプレイの造り方 [造形・構成・演出]	ディスプレイデザインの形成法を考える。授業内容を復習する。			4
第11回	ディスプレイデザインの考え方 [他業種との連携] と [先端技術との関係]	各種メディア、IT技術などディスプレイと関係、デザインと制作に必要な連携を考える。授業内容を復習する。			4
第12回	ディスプレイデザインの考え方 [色彩計画・素材・演出照明]	ディスプレイデザインに必要な色と光、各種素材を用いた演出方法を考える。授業内容を復習する。			4
第13回	考え方 [ディスプレイプロセス]	ディスプレイデザインがどのような過程で制作されるか考える。授業内容を復習する。			4
第14回	まとめ 総括とレポート作成	授業で学んだことをまとめる。授業内容を復習する。			4
教科書・参考書等					
参考となる書籍の一部引用や、自作テキストの配布など必要に応じて講義内で指示する。					
成績評価方法・基準					
課題レポート・期末レポートにて評価を行う。					

41	ウェブデザイン論 LCD-TH-310	選択 2単位 3年後期	
	Theory of Web Design		
3年全組 非常勤講師 鈴木 綾			
授業の達成目標		授業形態	
授業の内容を理解し、Web デザイナー検定ベーシック (CG-ARTS 協会主催) に相当する知識を習得することを目標とする。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
Web サイトの企画・制作・デザインに関する基礎的な理解と、Web デザインの基礎と技術について学ぶ。WWW の基礎知識について Web デザインの事例を紹介しながら学習する。Web デザインの制作フローを段階ごとに理解し、Web デザインに必要な技術についての知識を幅広く学習する。授業では、ウェブデザインの実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス・Web とは何か・Web サイトの歴史	予習: ウェブサイトの歴史に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第2回	多様化するデバイスにおける UI 設計	予習: デバイスの多様化における UI デザインに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第3回	ウェブサイトのコンセプト設計	予習: コンセプト設計に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第4回	ペルソナ設計とサイトナビゲーションについて	予習: ペルソナ設計に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第5回	Web サイトの目的とユーザーニーズ	予習: Web サイトの目的とユーザーニーズに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第6回	HTML の学習	予習: HTML に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第7回	CSS の学習	予習: CSS に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第8回	ウェブデザインのデザインテンプレートの学習	予習: デザインテンプレートに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第9回	色彩デザイン、フォントデザイン	予習: 色彩デザイン、フォントデザインに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第10回	画像デザインと著作権	予習: 画像デザインと著作権に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第11回	ウェブ集客について	予習: ウェブ集客に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第12回	マーケティングとウェブデザインの関連について	予習: マーケティングに関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第13回	ウェブ解析に基づいた UX デザインについて	予習: ウェブ解析に関連するキーワードについて調べる。 復習: 配付資料などを確認してレポートを書く。レポートについては、次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。	4
第14回	レポート作成	予習: 第1回から第13回までの授業を統合的に考察する。 復習: レポートの評価から知識の正否を調べる。	4
教科書・参考書等			
入門 Web デザイン (CG-ARTS 協会)、Web デザイン (CG-ARTS 協会)			
成績評価方法・基準			
レポート (60%)、簡易的なウェブ制作課題 (40%) で評価。			

42	エキスパートデザイン計画および同実習B LCD-TC-302		選択 3単位 3年後期
	Expert Design Planning and Practice B		
3年全組 全教員			
授業の達成目標			授業形態
デザインプロセスの流れを理解し、アイデアを実現するための応用技術を活用できるようになる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
デザイン計画および同実習で習得した知識・技術をベースに、少人数のゼミ形式で、より高いレベルのデザイン課題に実践的に取り組み、高度なデザイン手法を習得する。また、東北地域を意識したデザインテーマに取り組むことで、地域の課題をデザインで解決する手法を考える。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	エキスパートデザイン計画基礎：課題整理	予習：エキスパートデザイン計画基礎 (課題整理) 関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第2回	エキスパートデザイン計画基礎：アイデア展開	予習：エキスパートデザイン計画基礎 (アイデア展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第3回	エキスパートデザイン計画基礎：基本デザイン制作 (展開)	予習：基本デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第4回	エキスパートデザイン計画基礎：基本デザイン制作 (精緻化)	予習：基本デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第5回	エキスパートデザイン計画応用：応用デザイン制作 (展開)	予習：応用デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第6回	エキスパートデザイン計画応用：応用デザイン制作 (精緻化)	予習：応用デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第7回	エキスパートデザイン計画応用：中間プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第8回	エキスパートデザイン計画応用：中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第9回	エキスパートデザイン計画応用：検証	予習：エキスパートデザイン計画 (検証) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第10回	エキスパートデザイン計画実践：実践デザイン制作 (展開)	予習：実践デザイン制作 (展開) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第11回	エキスパートデザイン計画実践：実践デザイン制作 (精緻化)	予習：実践デザイン制作 (精緻化) に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第12回	エキスパートデザイン計画実践：最終プレゼンテーション準備	予習：前回までの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第13回	エキスパートデザイン計画実践：最終プレゼンテーション	予習：最終プレゼンテーションに必要なキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは、都度実施する。	5
第14回	エキスパートデザイン計画実践：総括・リフレクション	予習：これまでの授業に関連するキーワードについて調べる。 復習：配付資料などを確認し、課題を完成させる。課題に関連するフィードバックは都度実施する。	5
教科書・参考書等			
教科書・参考書については授業開始時、もしくは適宜必要に応じて指示する。			
成績評価方法・基準			
提出作品により総合的に評価する。			

43	知的財産権 LCD-TH-401	選択 2単位 4年前期	
	Intellectual Property Right	※ 2018年度以前入学生が対象	
4年全組 非常勤講師 蘆立 順美			
授業の達成目標		授業形態	
①デザイン開発の現場における知的財産権の重要性を理解する。②知的財産法の全体像と各法の目的を理解する。③知的財産法に属する各法について、それぞれの保護となる創作物の違いと、付与される法的保護の違いを理解する。④創作行為を行うにあたり、法的な権利関係等について、どのような点に留意すべきかを理解する。		<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
本講義では、創作行為において留意すべき法的な権利関係について理解することを目的として、デザインの開発現場と知的財産権との関わり、および、知的財産法に属する分野のうち、特にデザインとの関係が深い法領域（著作権法および意匠法）を中心に、その基本的な内容について概説する。授業では、工業デザインの実務経験があり、知的財産、特に意匠権に関する知識を持つ外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input checked="" type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	デザイン開発における知的財産権の考え（松本）	各自が現時点で知的財産権をどの程度の知識や情報を持ち、理解したうえで、デザイン開発現場での概要を学び、新聞・雑誌などから知的財産の記事を見つけ出し社会状況を復習する。	4
第2回	デザイン業務の中で知的財産権の活用と運用（松本）	現社会の中で知的財産権をどのように活用・運用しているのか、また、それにより、産業界や事業がどうなるのかを復習する。	4
第3回	デザインビジネスと知的財産権のあり方（松本）	デザイナーや事業者が行うデザインビジネスが、社会に大きな影響を与える中、知的財産権のあり方を学び、権利と責任について復習する。また、人類史上において多くの革新的創造について学び復習をする。	4
第4回	知的財産法とデザイン／知的財産法の全体像（蘆立）	創作物に法的保護が必要とされる理由を予習する。知的財産法の目的と保護対象について復習する。	4
第5回	法的に保護される創作物：著作物（蘆立）	著作権法の保護対象について予習する。創作物が著作物と認定されるための要件を理解しているかについて復習する。	4
第6回	法的に保護される創作物：意匠と登録制度（蘆立）	意匠権の取得手続きを予習する。権利を取得要件、意匠法の保護対象と著作権法の保護対象の違いについて復習する。	4
第7回	著作物に付与される権利：著作権（蘆立）	著作権の内容について予習する。著作物のどのような利用行為が権利の侵害となるかについて復習する。	4
第8回	著作物に付与される権利：著作者人格権（蘆立）	著作者人格権の内容について予習する。著作物のどのような利用行為が権利の侵害となるかについて復習する。	4
第9回	登録意匠に付与される権利：意匠権（蘆立）	意匠権の内容について予習する。意匠権の侵害の要件を復習し、著作権・著作者人格権侵害との違いを理解する。	4
第10回	権利を有する者と権利侵害に対する救済（蘆立）	著作権・著作者人格権、意匠権の帰属について予習する。著作権法と意匠法の権利者の確定ルールの違いについて復習する。	4
第11回	商品形態にかかわる法制度：不正競争防止法（蘆立）	不正競争防止法の特徴について予習する。不正競争防止法の保護と意匠法の保護の違いについて復習する。	4
第12回	ロゴマーク等に関わる法制度：商標法・不正競争防止法（蘆立）	ロゴマークに関係する法律について予習する。商標権の保護と不正競争防止法の保護それぞれの長所・短所について復習する。	4
第13回	技術とデザイン：その他の知的財産権（蘆立）	技術を保護する法律は何かについて予習する。特許権の内容と、特許権がデザインの保護に与える影響について復習する。	4
第14回	試験と解説（蘆立）	授業で扱ったすべての内容について復習し、筆記試験に臨む。試験の解説により理解を深める。	4
教科書・参考書等			
授業においては、適宜資料を配付する。			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する小テスト等への取り組み状況 40%、筆記試験 60%で評価し、総合して 60 点以上を合格とする。小テストに関しては、次回授業時に解説を行う。			

44	デザイン起業論 LCD-TH-402	選択 2単位 4年前期	
	Entrepreneurship in Design Business		
4年全組 准教授 下總 良則			
授業の達成目標		授業形態	
①働き方の多様性にふれる ②デザインビジネスを概観する ③アイデア（発案）をキャッシュ（収益）に変換するプロセスを体験する ④簡単なビジネスプランを作ってみる		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
①社会が求める製品やサービスを提供するには、メーカーやメディア制作企業に就職し仕事をするだけでなく、デザイナー自身が考えたアイデアを直接ビジネスに繋げていくための組織を立ち上げることも有効である。そのためには、単にアイデアを考え形に落とすだけでなく、必要な資源を確保し、チームの協力を通じて現実化していく努力が必要である。デザイン分野で起業するために身につけたい考え方、マネジメントの方法を紹介する。 ②本科目では講師による一方向の講義は最低限にし、ケース（事例）を使ったディスカッションや、グループワークにより授業を進める。なお、授業の演習回では、受講学生が予め考えてきた意見をもとに、クラス全体で学びを進める。このため、演習回のために授業内で指定された予習は必須とする。		教職科目（工業） 教職科目（情報） 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		実務経験のある教員担当 アクティブラーニング	
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	※ガイダンス、授業の進め方	「あったら良いな」を三つ、短い言葉で書いて予習する。 クラスディスカッション(ビジネスに必要なもの)で出た意見を復習としてまとめる。	4
第2回	起業するマインド	起業後に予想される困難を、短い言葉で書いて予習する。 クラスディスカッションで出た解決策を復習としてまとめる。	4
第3回	ビジネスの三要素3つのC	デザインの仕事の「お客さん」は誰かを考え予習する。 クラスディスカッションで出た多様な業種の3つのCを復習としてまとめる。	4
第4回	プロフェッショナル（専門職）のキャリアー	世間で「プロ」と呼ばれる職業と、その特徴を考えて予習する。 デザイン業界で成功に近づくための行動を復習としてまとめる。	4
第5回	デザインハウスの仕事	デザインハウスと一般の会社を比較して予習とする。講義を振り返ってデザインの仕事の喜びとチャレンジを復習としてまとめる。	4
第6回	デザインを通じた事業の変革	デザインが秀逸な商品の例を予習として調べる。プロジェクト1の作業内容を確認し、個人で取り組むか、チームにするかを決める。	4
第7回	【プロジェクト1スタート】ビジネスプランの素案検討	予習として、ポジショニング調査で使う対立軸を決める。復習として、調査報告提出までのスケジュールをつくる。	4
第8回	【プロジェクト2スタート】ビジネスプランの意義と校正	シラバスの【プロジェクト2】の説明を予め読んで把握する。 配付されたテンプレートの全体をながめて、作業の流れを復習する。	4
第9回	ビジネスプランのつくりかた（1）：発想の方法	新しいアイデアをつくる時、どうしたか経験を予習としてふりかえる。 講義で紹介した発想の方法を比較して使えそうなものを選ぶ。	4
第10回	ビジネスプランのつくりかた（2）：事業機会のとらえ方	解決したい身の回りの困りごとを予習としてリストする。 困りごとを解決する手段を検討し、テンプレートに記入して復習する。	4
第11回	ビジネスプランのつくりかた（3）：マーケティング	マーケティングという言葉の意味を回りの人に尋ねて予習とする。 検討中の事業のマーケティング計画をテンプレートに記入して復習する。	4
第12回	ビジネスプランのつくりかた（4）：実行計画	事業の5年先の姿を想像して予習とする。 検討中の事業の実行計画をテンプレートに記入して復習する。	4
第13回	ビジネスプランのつくりかた（5）：収益・資金計画	エクセルの経験のある人は、簡単な表をつくり予習する。 検討中の事業の収益計画を(エクセルで計算し)テンプレートに記入する。	4
第14回	プレゼンテーション（成果発表会）	プレゼンテーションのスライドの完成、発表分担の確認。 他の発表の評価シートを記入して提出する。	4
教科書・参考書等			
講義資料としてパワーポイントを毎回配付。 ビジネスプラン演習はワークシートを使用。 参考書：①ティナ・シエリグ：「20歳のときに知っておきたかったこと」（起業家育成集中講義） ②エイドリアン・ショーネシー：「魂を失わずにグラフィックデザイナーになる本」			
成績評価方法・基準			
発言 20%、グループワーク 30%、レポート 50%を目安に評価。			

45	工芸学 LCD-TH-403	選択 2単位 4年前期	
	History and Theory of Industrial Arts		
4年全組 非常勤講師 小谷 竜介			
授業の達成目標		授業形態	
伝統文化として伝承した工芸技術と工芸作品を通して、生活文化や精神文化に根ざした人間と物との関わりを知り、豊かな感性を育ててほしい。机上の工芸論の理解にとどまらず、現代の我々が抱える工芸の課題、クラフトデザインについて考えてください。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
伝統工芸と、高度な機械化と合理化された現代のクラフトについて、その発生や地域、文化、各地の素材や生産技法を解説する。特に東北各地の工芸の魅力と「素材」「技」「意匠」の特徴について、歴史的背景を踏まえながら具体的な参考作品を紹介し解説する。授業では、工芸の魅力と「素材」「技術」「意匠」の分野で実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。		<input type="radio"/> 教職科目 (工業) <input type="radio"/> 教職科目 (情報) <input type="radio"/> 地域志向科目 <input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="radio"/> アクティブラーニング	
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等での工芸に関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	オリエンテーション	工芸に関連するキーワードについて調べて予習する。	4
第2回	工芸史 1- 工芸という単語	予習：工芸という言葉から連想するものについて具体化させる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第3回	工芸史 2- 工芸と美術	予習：美術工芸という言葉から連想する物について具体化させる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第4回	工芸史 3- 工芸と工業	予習：前近代の工業について調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第5回	工芸史 4- 博覧会と工芸	予習：博覧会に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第6回	工芸史 5- 工芸とデザイン	予習：前近代のデザインに関するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第7回	工芸史 6- 工芸と産業	予習：近代の工芸と工業の関わりについて講義を振り返る 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第8回	伝統工芸 1 - 美術工芸品	予習：伝統工芸に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第9回	伝統工芸 2 - 伝統工芸技術	予習：工芸技術に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第10回	手工芸 1 - 職人	予習：江戸時代の職人に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第11回	手工芸 2 - 副業	予習：近代の職人に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第12回	欧米の工芸 1 - 欧米の工芸概要	予習：欧州の工芸に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第13回	欧米の工芸 2 - 北米の工芸	予習：北米の工芸に関連するキーワードについて調べる。 復習：授業中の内容などを確認する。	4
第14回	工芸史 7- 工芸と現代	全体の授業内容を振り返りまとめを行うこと。日本の工芸についての関心を深める。	4
教科書・参考書等			
使用しない。			
成績評価方法・基準			
提出物およびレポートによって評価する。			

46	クリエイティブデザイン特別講義 LCD-TH-404		選択 2単位 4年前期
	Special Lecture of Design		
4年全組 准教授 長崎 智宏 ほか			
授業の達成目標			授業形態
現代における“デザイン”の急速な拡大を理解し、自らがデザインのパラダイムを拡大する態度を身につけられるようになる。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input checked="" type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
現代におけるデザインの対象分野は、グローバルな企業を対象としたものから、地域やコミュニティを対象としたものまで、きわめて多岐で多様である。様々な分野で活躍している専門家を通じて、デザイン活動の現状を学ぶことによって、今後自分がデザインとどのようにかかわっていくかについて考えられるようにする。内容としては「デザインとコンピューター」「デザインを活用した地域活性化」「ビジネスにおけるデザイン活動」などである。授業では、創造的な仕事（広告系 Web デザイン、映像企画等）の実務経験のある外部講師を招きより実践的な授業構成とする。			<input type="checkbox"/> 教職科目（工業） <input type="checkbox"/> 教職科目（情報） <input type="checkbox"/> 地域志向科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（予習・復習）	時間(時)
第1回	全体ガイダンス	予習：自らのデザインスキル、アプローチ、考え方をまとめる。 復習：自らのデザインスキル、アプローチ、考え方をまとめる。	4
第2回	デザイン活動事例：デザイン活動の構造	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：追加のリサーチを行い、まとめる。	4
第3回	デザイン活動事例：芸術とデザイン活動	予習：関連するキーワードについて考えをまとめる。 復習：追加のアイデアリサーチを行い、まとめる。	4
第4回	デザイン活動事例：独自性とデザイン活動	予習：関連するキーワードについて考えをまとめる。 復習：追加のアイデアリサーチを行い、まとめる。	4
第5回	デザイン活動事例：研究とデザイン（概要）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第6回	デザイン活動事例：研究とデザイン（実践）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第7回	デザイン活動事例：表象とデザイン（概要）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第8回	デザイン活動事例：表象とデザイン（実践）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第9回	デザイン活動事例：デザインと教育（概要）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第10回	デザイン活動事例：デザインと教育（実践）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第11回	デザイン活動事例：地域とアート、デザイン（概要）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第12回	デザイン活動事例：地域とアート、デザイン（実践）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第13回	デザイン活動事例：映像とデザイン（概要）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
第14回	デザイン活動事例：映像とデザイン（実践）	予習：関連するキーワードについてリサーチする。 復習：事例について自らの視点でリサーチ・考察をする。	4
教科書・参考書等			
教科書は指定しない。			
成績評価方法・基準			
毎回の講義で指定するミニレポート（紹介事例を適切に捉えているか、独自の視点があるか） 最終レポート課題（デザイン活動の現状を捉えているか、独自の視点があるか）			

47	メディア論 LCD-TH-405	選択 2単位 4年後期	
	Theory of Media 4年全組 教授 堀江 政広		
授業の達成目標		授業形態	
①メディア研究の視点から、メディア論の基礎を理解する。②現代のメディア社会が抱える課題を捉える。③メディア社会での情報デザイナーとして必要な知識を身につける。		<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="radio"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏に担当) <input type="radio"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="radio"/> クラス分け (クラス分けで担当する)	
授業の概要		該当科目	
デジタル・メディアのデザインをする上で、デザイナーに必要な、メディアとの関わり方について学習する。授業の前半は文献を講読しながらすすめ、後半は学生が担当するメディアについて、文献の内容を含めて発表する。マーシャル・マクルーハン著「メディア論」の「メディアはメッセージである」という主張を理解する。そして「メディア論」で取り上げられている写真、電話、蓄音機、映画、ラジオ、テレビといったメディアについて振り返る。そこから、インターネットやケータイ、スマートフォンといったデジタル・メディアの可能性と課題についての考え方を養う。そして、情報デザインの視点から、メディアの身体性について考える。		<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目	
実務経験を活かした教育について		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。		<input type="checkbox"/> アクティブラーニング	
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	熱いメディアと冷たいメディア	予習：マーシャル・マクルーハンについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第2回	人間の拡張	予習：人間とテクノロジーの関わりを調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第3回	19世紀のメディア (電信、電話、無線、ラジオ)	予習：電信、電話、無線、ラジオについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第4回	20世紀のメディア (ラジオ、テレビ)	予習：ラジオ、テレビについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第5回	20世紀のマスメディア (新聞、放送)	予習：新聞、放送について調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第6回	21世紀のデジタル・メディア (インターネット)	予習：インターネットについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第7回	21世紀のデジタル・メディア (ケータイ、スマートフォン)	予習：ケータイ、スマートフォンについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第8回	21世紀の市民メディア	予習：市民メディアについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第9回	メディア・リテラシー	予習：メディア・リテラシーについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第10回	メディアと情報デザイン	予習：情報デザインについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第11回	メディア・アート	予習：メディアアートについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第12回	グローバル・メディア (アニメ、ゲーム)	予習：アニメ、ゲームについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第13回	ローカル・メディア (エスニック・メディア)	予習：エスニック・メディアについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
第14回	実践ワークショップ	予習：メディア研究での実践ワークショップについて調べる。 復習：配付資料などを確認して復習する。	4
教科書・参考書等			
参考書 「メディア論－人間の拡張の諸相」、マーシャル・マクルーハン著、みすず書房、1987			
成績評価方法・基準			
レポートによって評価する。			

48	サステイナブルデザイン論	LCD-TH-406	選択 2単位 4年後期
	Theory of Sustainable Design		
4年全組 非常勤講師 貝崎 勝			
授業の達成目標			授業形態
サステイナブルデザインとは、地球環境、地域、個人まで様々なレベルで、自然と社会と人の関係が無理なく持続できることを目指したデザインである。サステイナブルデザインの価値を理解し、デザイン活動のなかで実践できることを目標とする。			<input type="radio"/> 単独 (1人が全回担当) <input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一緒に担当) <input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合) <input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)
授業の概要			該当科目
社会とデザインの関係を理解し、4R(Refuse、Reduce、Reuse、Recycle)などの様々なサステイナブルの理論や方法論について、具体的な製品や活動の事例を通して学ぶ。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業) <input type="checkbox"/> 教職科目 (情報) <input type="checkbox"/> 地域志向科目
実務経験を活かした教育について			<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング
担当教員は、民間企業等でのデザインに関する実務経験に従事した実績と経験を講義に活かして、実務への対応力を養成する。			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	ガイダンス・将来の社会変化の予測 (気候変動や人口動向などを社会課題など)	予習：サステイナブル (理論) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第2回	ワークショップ (将来の社会変化)	予習：サステイナブル (社会動向) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第3回	課題設定 (社会課題の因果関係)	予習：サステイナブル (地域課題) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第4回	演習 (課題設定)	予習：サステイナブル (将来課題) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第5回	仮説設定 (将来起こり得そうな事象)	予習：サステイナブルデザインに関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第6回	演習 (仮説設定)	予習：サステイナブルデザインの事例に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第7回	アイデア抽出 (アイデアの可視化)	予習：サステイナブルデザインの応用に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第8回	演習 (アイデア抽出)	予習：サステイナブルデザインの実践に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第9回	サービスの具体化	予習：サステイナブルデザインの演習に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第10回	演習 (サービスの具体化)	予習：サステイナブルデザインの演習 (応用) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第11回	レポート作業 (課題)	予習：サステイナブルデザインの演習 (考察) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第12回	レポート作業 (仮説)	予習：サステイナブルデザインの演習 (検証) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第13回	レポート作業 (アイデア)	予習：サステイナブルデザインの演習 (展開) に関連する事項について調べる。 復習：配付資料などを確認する。	4
第14回	まとめ・レポート発表	講義全体を振り返り、配付資料などを確認して復習する。	4
教科書・参考書等			
なし。			
成績評価方法・基準			
発表内容および提出物、レポートによって評価する。			

49

クリエイティブデザイン特別課外活動

LCD-XX-001

選択 1～4単位 1年前期～4年後期

Extracurricular Activities in Creative Design

全学年全組 学科長 堀江 政広

本学科の専門に関連の深い資格の取得や検定等の合格、学科が指定する課外活動などに対して、本人の申請に基づいて学科で審査の上、専門選択科目の単位として合計4単位までを認める。申請した課外活動の内容により1単位あるいは2単位を認定する。単位認定を希望する者は、教務学生課又は長町キャンパス事務室に申し出て「クリエイティブデザイン特別課外活動単位認定申請書」を受け取り、必要事項を記入し、以下に示すその他の必要書類とともに教務学生課又は長町キャンパス事務室へ提出すること。申請の期限は毎学期末（7月末日、1月末日）とする。なお、同様の課外活動で、教養教育科目の「特別課外活動」の単位認定にも申請できるが、どちらに申請するかは本人が選択する。一つの活動で両科目の単位を取得することはできない。

◎資格取得、検定合格による単位認定

単位認定の対象となる資格、検定の例を下表に示す。

これら以外の資格、検定については、申請に応じ学科で判断する。資格取得、検定合格による単位認定申請に必要な書類は以下の通りである。

- ・クリエイティブデザイン特別課外活動単位認定申請書：取得した資格または合格した検定の名称、および取得年月日を記入すること。
- ・資格の取得または検定の合格を証明する書類のコピー。

◎学科指定の課外活動による単位認定

学科が指定する課外活動は次のようなものである。

- (1) 各種デザインコンペでの受賞
- (2) 企業実習への参加
- (3) インターンシップへの参加
- (4) 学科内の研究室が単独または合同で実施する調査研究や各種ゼミへの参加
- (5) 自主的に行う国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施など

学科が指定する課外活動による単位認定申請に必要な書類は以下の通りである。

- ・クリエイティブデザイン特別課外活動単位認定申請書：課外活動の名称、活動時期（年月日）、場所、活動内容の概要を記入すること。
- ・活動報告書：A4サイズ、1000文字程度。活動の動機、内容、成果（具体的な成果物の写真、身につけた知識や技能、精神的な成長など）を詳細に示すこと。（3）の場合は大学所定の「インターンシップ実習報告書」でよい。
- ・活動参加を証明する書類：（3）の場合は大学所定の「インターンシップ評価票」でよい。

◎単位の認定

単位認定および評価は、教養科目の「特別課外活動」の方法に準じて行うのでそれらを参照のこと。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
色彩検定	2
CGクリエイター検定	2
CGエンジニア検定	2
マルチメディア検定	2
Photoshop クリエイター能力認定試験	2
ファッションビジネス能力検定	2
カラーコーディネーター検定	2
Web デザイナー検定	2
画像処理エンジニア検定	2
Illustrator クリエイター能力認定試験	2
マイクロソフトオフィススペシャリスト	2

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

50	チャレンジアブロードプログラム	LM-K-001	選択	4単位	1年前期～4年後期
	Challenge Abroad Program				
全学年全組 教授 宮曾根美香 教授 大石加奈子 准教授 佐藤 夏子		准教授 二瀬 由理			
授業の達成目標			授業形態		
1. 事前研修において海外で研修をするために必要な基本的知識とスキルを身につける。 2. 海外研修で異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図る(現地研修は対面を予定、状況によってはオンライン留学でリアルタイムオンラインでの実施となる)。			<input type="checkbox"/> 単独 (1人が全回担当)		
			<input type="checkbox"/> 複数 (1回の授業を2人以上が一纏めに担当)		
			<input type="checkbox"/> オムニバス (各回の担当教員が異なる場合)		
			<input type="checkbox"/> クラス分け (クラス分けで担当する)		
授業の概要			該当科目		
1. 事前研修—海外での生活、ホームステイ、英会話、プロジェクト・ワークについての事前指導と準備。 2. 海外研修—海外の語学学校での語学研修に参加し、英語レッスンに加えて、プロジェクトワークをする。帰国後は報告書の提出が必須。			<input type="checkbox"/> 教職科目 (工業)		
			<input type="checkbox"/> 地域志向科目		
			<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員担当		
実務経験を活かした教育について			<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		
教科書・参考書等			ハンドアウトを配付する。		
成績評価方法・基準			海外研修の報告書 50%、およびプロジェクト・ワーク 50%で評価する。		

授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (予習・復習)	時間(時)
第1回	1. 事前研修 (後期) オリエンテーション	予習: 他の人たちの留学体験記を読んでくる、復習: 自分の留学の目標 (大・小) と必要な事前準備について整理する。	4
第2回	留学先について学ぶ	予習: 留学先の国について調べる、復習: 講義の内容を整理する。	4
第3回	英語で自己紹介	予習: ハンドアウトの設問に答え、自己紹介文 (英文) を作成してくる、復習: 英語の自己紹介文をまとめる。	4
第4回	「ホームステイ」の英会話	予習: ホームステイに必要な英会話表現を調べる、復習: ハンドアウトの内容を繰り返し学習して理解する。	4
第5回	「食事」の英会話	予習: 食事で必要な英会話表現を調べる、復習: ハンドアウトの内容を繰り返し学習して理解する。	4
第6回	「道を尋ねる」英会話	予習: 道を尋ねる際必要な英会話表現を調べる、復習: ハンドアウトの内容を繰り返し学習して理解する。	4
第7回	「買い物」の英会話	予習: 買い物に必要な英会話表現を調べる、復習: ハンドアウトの内容を繰り返し学習して理解する。	4
第8回	プロジェクトワークの準備 (グループ分けと企画)	予習: 現地で紹介したい日本文化について調べてくる、復習: 話し合いでまとめたことと今後の課題を整理する。	4
第9回	プロジェクトワークでの仕事分担およびタイムスケジュール作成	予習: 自分の分担領域の調査と提案の準備、復習: 自分の担当について加筆・修正する。	4
第10回	企画についてのプレゼンテーション	予習: 紹介する日本文化についてパワーポイントを作成する、復習: 講義で受けた指摘をもとにパワーポイントを修正する。	4
第11回	企画の修正及び準備 (作業および英文の作成等)	予習: 日本文化紹介に必要な準備について整理してくる、復習: 講義で受けた指摘を参考にしながらまとめる。	4
第12回	準備 (作業および英文の作成等)	予習: 日本文化紹介に必要な単語や表現を調べる、復習: 講義で受けた指摘を参考にしながらまとめる。	4
第13回	プロジェクトワーク最終確認	予習: より完成度の高い英文を書いてみる、復習: 講義で受けた指摘を参考にしながらまとめる。	4
第14回	出発前の最終打ち合わせ	予習: レポート課題について事前に調べておく、復習: 移動の行程、プロジェクトワーク、持ち物他について最終点検をする。	4
第15回	2. 現地語学研修 (2月～3月の間に実施予定) オリエンテーション	自己紹介の準備	
第16回	自己紹介及び相手との情報共有の英会話	他の学生たちから得た情報等を英語でまとめておく	
第17回	ホームステイでの生活に必要な表現及び語彙	授業で習った表現、語彙を復習する	
第18回	場面及び機能に応じた会話	授業で習った表現、語彙を復習する	
第19回	四技能の活動と演習	授業で習った表現、語彙を復習する	
第20回	プロジェクトワークの準備	プロジェクトワークで使う表現、語彙をまとめる	
第21回	日本文化紹介 (プレゼンテーション・交流)	寄せられた質問と回答をまとめる	
第22回	反省点を話し合う	修正すべき点を英語でまとめる	
第23回	異文化理解と異文化間コミュニケーション①	授業で習った表現、語彙を復習する	
第24回	異文化理解と異文化間コミュニケーション②	授業で習った表現、語彙を復習する	
第25回	トピックを決めて日本と現地の比較 ディスカッション①	有効な表現、語彙をまとめる	
第26回	トピックを決めて日本と現地の比較 ディスカッション②	有効な表現、語彙をまとめる	
第27回	感謝の挨拶	スピーチの準備	
第28回	まとめ 帰国後に報告書を作成、提出	現地研修を振り返って簡単にまとめる	

51	他学科開講科目群 AA-X-001	選択 8単位 1年後期～4年後期
-----------	--------------------------	------------------

Subjects offered by other departments

他学科開講科目については、1セメスターに2単位まで受講可能とする。各科目のシラバスを参照のこと。

52

他大学開講科目群 AA-X-002

選択 4単位 1年後期～4年前期

Subjects offered by other universities

詳細については学生便覧の「他大学開講科目群」、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。